公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成29年2月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻565号

ハンドボール

特集

第68回 日本選手権大会
男子第59回 女子第52回 全日本学生選手権大会
第25回 JOCジュニアオリンピックカップ

1・2
JAN. FEB. 2017 No.565





［表紙写真］ 日本選手権大会最優秀選手の大崎電機・信太弘樹選手（左）、オムロン・永田しおり選手（右）　写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

年頭にあたり



公益財団法人 日本ハンドボール協会会長　渡辺 佳英

常日頃より当協会の諸事業に対して深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、全国のハンドボール愛好者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新年を迎え、2020年東京オリンピックまであと3年半と迫って参りました。男女日本代表チームは、東京オリンピックでのメダル獲得を目指しています。そのために、世界トップクラスの指導者を監督に迎え、強化活動を推進し、メダル獲得実現に向けて大きな一歩を既に踏み出しています。また、今年からは世界の強豪チームを招聘した国際大会を複数回開催し、国際的な競技力の向上をはかるとともに、国際大会の運営能力の向上もはかって参ります。引き続きのご支援、ご声援をお願い申し上げます。

年初には、味の素ナショナルトレーニングセンターでNTSセンタートレーニングを行いました。全国より選ばれた中高生が将来の日本代表を目指してトレーニングに励みました。世界での活躍を夢見る子供たちに希望を与え、実現させることが我々の使命と考えております。さらに国際大会で経験を積み、将来の日本代表チームを支えてくれるものと期待しています。

2019年熊本女子世界選手権、2020年東京オリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍と、両大会でのメダル獲得という目標に向けて、さらなる覚悟をもって全力で取り組んで参ります。

全国のハンドボール愛好者の皆様、本年も幅広いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年1月13日

ゴール等競技用具の安全管理について（通知）

（公財）日本ハンドボール協会会長　渡辺 佳英

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本協会の競技運営に格別のご尽力を賜りましてありがとうございます。

さて、テレビニュース、新聞等で、本日（1/13）午前、福岡県大川市内の小学校グランドで授業中にハンドボールゴールが倒れて、小学校4年生の男子がその下敷きになり、亡くなられたという報道がありました。謹んでお悔やみ申しあげます。これは非常に痛ましい事故であり、あってはならないことです。

ハンドボールゴールの事故であり、利用、管理をキチンとしていれば未然に防げた事故かと思います。つきましては、以前にもお願いいたしましたが、ゴールによる事故防止策については、関係方面において十分に周知徹底されますよう、一層のご配慮を賜り、関係方面にご連絡いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

ゴールを使用して競技をする場合、保管する場合、状況に合わせたそれぞれの方法により、事故防止のために、より一層の安全措置を講じ周知徹底すること。

例として、**「ボルトで床と固定をする」、「グランドと基部の間に杭を打つ」、「横に寝かして管理する」、「前後部のバー及び上部の金属部にぶら下がらない指示を徹底する」、「ゴールネットで遊ばない」、「競技用具本来の使用の目的以外に利用しない」**等の具体策を以て、ゴール等競技用具による事故が起こらないように安全対策の再確認をすること。

以上

平成28年度

第68回日本ハンドボール選手権大会

開催期日：平成28年12月20日(火)～25日(日)
会　　場：エスフォルタアリーナ八王子、駒沢体育館

男子

【最終順位】
優　勝：大崎電気
準優勝：トヨタ車体
３　位：大同特殊鋼、トヨタ自動車東日本

最優秀選手賞　信太弘樹（大崎電気）
最優秀監督賞　岩本真典（大崎電気）

女子

【最終順位】
優　勝：オムロン
準優勝：北國銀行
３　位：大阪体育大学、三重バイオレットアイリス

最優秀選手賞　永田しおり（オムロン）
最優秀監督賞　黄　慶泳（オムロン）

写真提供：スポーツイベント社

総評―大会を終えて

東京都ハンドボール協会副理事長　江幡 多喜彦

第68回日本ハンドボール選手権大会は、12月20日(火)より12月25日(日)の6日間の開催日程にて行い、20日(火)～23日(金)エスフォルタアリーナ八王子会場、24日（土）～25日（日）駒沢体育館の２会場にて行われました。両会場にてご協力・ご支援をいただきました関係団体、関係各社、大会運営、協賛広告をいただいた皆様にお礼申し上げます。また、大会会場へと応援に足を運んでいただいた多くのファンの皆様に感謝を申し上げます。

本選手権大会は、男子24チーム5日間（23試合）・女子20チーム4日間（19試合）のトーナメント方式により、日本一の座を目指す壮絶な大会となります。今回の大会において、高校生、大学生の活躍が目を引きました。生憎と準決勝には進めませんでしたが、男子の試合では、大学生チームが日本リーグチームを苦しめるといったレベルの高いチームも有りました。また、女子の試合には、高校生チームが社会人チームを破ったり、大学生チームが日本リーグチームを破ったりと、会場を大いに盛り上げると同時に、本大会を盛り上げていただいた学生諸君にこの場をお借りし「ありがとう」とお礼を言いたいと思います。

場所を駒沢体育館に移し、準決勝・決勝を行いましたが、ここは順当に男女共に日本リーグチームによって試合が行われる事となりました。決勝戦においては、男女ともに60分では勝敗がつかず延長戦にもつれ込む内容となり、何れが日本一に成っても不思議ではない内容の濃い試合展開でした。ハンドボールの面白さと魅力を会場に訪れた観客の皆様にお伝え出来た有意義な大会と成った事を、改めてご協力いただいた多くの皆様、選手、チーム関係者に感謝致します。

問題点としては集客数が課題となります。ポスターの作成、日本協会ホームページのPR度及び、SNS等の配信など最大に利用し大会等のPRをもっと事前に行う、日本リーグチームに企業広告として自動車販売店、各企業の関連先等にポスターを張って貰うとか観客動員への策が今後の課題となりました。また開催期間については、１～３回戦は平日の為、社会人チームのメンバーが会社等休めずに７人ぎりぎりでの参加といったチームも見かけました。１～２回戦を土日に行い、以降を翌週の土日に行うといった方法も今後観客動員も含め検討すべきではないかと思った大会でもありました。

本大会にて学んだ経験と反省点を生かし、今後行われる世界レベルの大会や国際大会、そして2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、多くの方のご協力と、多くの方々の試合観戦が課題になると思います。今後共日本ハンドボール協会、各都道府県のハンドボール協会の皆様のご協力とご支援をお願いし、本大会が無事終了したとして日本ハンドボール選手権大会の総評とさせて頂きます。

**男子は
大崎電気が
2年ぶり
13回目の優勝！**





**女子は
オムロンが
2年ぶり
18回目の優勝！**

2点共　写真提供：スポーツイベント社



男子優勝 大崎電気

大崎電気ハンドボール部監督　岩本 真典



2点共　写真提供：スポーツイベント社

はじめに、第68回日本ハンドボール選手権大会を開催するにあたりご尽力いただいた東京都ハンドボール協会、（公財）日本ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く感謝、御礼申し上げます。

この度、私たち大崎電気は第68回日本ハンドボール選手権大会において２年振り13回目の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして多くのファンの方々や大崎電気ハンドボール部関係各位の皆様の力あってこその結果だと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

そして何より優勝という文字に飢え、日々のトレーニングにおいて切磋琢磨し選手間での競争を闘い抜いた21名の選手の努力の賜物だと思っています。

選手には日頃から FOR THE TEAM! THINKING HANDBALL! というチームスローガンの基、指導しております。

今大会は18名大会登録（16名ベンチ登録）しか出来ず、大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが２名しか出来ないという中、決勝戦までの３試合、試合に出場している選手は勿論ですがベンチ登録を外れた５名の選手もチームの為に最善を尽くし、選手21名がひとつになって大きな力を発揮し、役割を果たしてくれたことに感謝しております。

しかしこれを継続しなければ意味がないと思っています。

今大会は大崎電気として２年振りの優勝でしたが、チームの目標である東アジアクラブ制覇に向け今期最終のタイトルも獲るべく、更なるステップアップを目指し、これまで以上の努力を重ねて21名の選手、誰が出場してもチーム力が落ちないチームを目指し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。そして大崎電気ハンドボール部をこれからも宜しくお願い致します。



オムロンハンドボール部ヘッドコーチ　黄　慶泳

第68回日本ハンドボール選手権大会において2年ぶり18回目の優勝を勝ち取ることができ素直に喜んでおります。2年前のこの大会の優勝後は負けが続いていたので、今回の優勝はチームにとって本当に大きな意味があると感じております。会社の全面的なご支援は勿論のこと、優勝を渇望しながら声援を続けてくれたOGも含めたサポーターの方々、会場まで足を運んで声援を送ってくれた方々、チームオムロン皆様方の思いがこのような結果を生み出してくれたと思います。本当にありがとうございました。

また、日本リーグに1か月間の中断がありましたが、その期間がチームをもう一度立て直せるチャンスでもあり、成長できた期間でもありました。その間、何よりも西窪GMよりチームが薄れかけていた組織としての基本と人間力の見直し、また、ハンドボールにおいての基本である守りの重要性をご指導いただいたお陰で、チーム全員の意識が変わりました。それをきっかけにチーム強化に必要な明確な方向性ができ、選手たちの目の色が変わって取り組んできたことが、今回の最後まで粘り強く戦えた大きな要因であると確信しております。そして県内男子高校チームの協力があってこそチーム強化ができましたので、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

大会を通してベテラン選手の活躍がチームを引っ張り、若手と中堅選手が試合ごとに成長して力を発揮できるようになったことも大きな収穫でありました。今後はこの大会で得た課題と収穫を糧にさらにチーム力を上げ、日本リーグ王座奪還に向けて全力で取り組んでまいりますので引き続きご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、大会の運営にご尽力いただきました関係者の皆様方にお礼を申し上げまして大会優勝のご報告といたします。本当にありがとうございました。

オムロンハンドボール部主将　永田しおり

12月20日～25日まで東京都で第68回日本ハンドボール選手権大会が行われました。

初戦は香川銀行と対戦。スタートから堅さはあったもののディフェンスから速攻で着実に得点を重ね、29－19で勝利。

準々決勝は、HC名古屋との対戦。立ち上がりからお互いにペースが掴めず、点の取り合いになり、1点を追いかける形で前半を終えました。後半は個々の役割ともっと足を動かしてプレーすることを確認し、相手の退場者が出るとその隙を逃さず連続得点をあげ、リズムを取り戻し22－19で勝利。

続く準決勝は、三重バイオレットアイリスとの対戦。序盤から一進一退の攻防になりましたが、ゲーム中盤にコートで細かく修正ができて相手の攻撃を防ぐことができました。終盤には、交代した選手が結果を出して25－20で決勝に駒を進めました。

決勝戦は昨年同様、北國銀行との対戦。前半はオムロンのディフェンスが機能し、リードする展開ではありましたが、自分たちのミスから相手に得点されて12－13と1点リードされる形で前半を折り返しました。後半に入り、お互いが一歩も譲らない攻防が続き、24－24で延長戦に突入しました。延長に入っても最後まで足を止めることなく、粘り強く守り、いいリズムで攻撃ができ28－25で2年ぶり18回目の優勝を飾ることができました。

22名選手全員がそれぞれの役割を果たしたからこそ優勝できたと思いますが、まだ攻守において課題もあります。今回の優勝に満足することなく、再度チーム全員で足元を見直し、精進して参りますので今後ともご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今大会にあたりご尽力いただきました協会関係者の方々、応援していただいた皆様に心より感謝申し上げます。

戦　評

【男子準決勝】 大崎電気　24（10 − 14、14 − 9）23　大同特殊鋼



準決勝第一試合は日本選手権において最多優勝回数 14 回を誇る大同特殊鋼とそれに次ぐ 12 回を数える大崎電気の強豪チーム同士の対戦、9 月の日本リーグでは大崎（暫定 3 位）が大同（暫定首位）を下している。開始早々、久保の速攻で先制した大同が、野村・東江のミドル、藤江のカットインなどで優勢に試合を運ぶが大崎は東長濱の鮮やかなミドル、小澤・岩永の速攻で対抗し、序盤は互角の展開となる。中盤以降、大同は千々波、朴を中心とする固い DF で大崎の得点を許さない。一方の大崎も GK 木村の好セーブで失点を抑える。残り 5 分を切って大同は久保の速攻、東江の得点でペースを掴む。前半は大同が大崎に 4 点差をつけて終了。

後半は序盤、大崎が小室、東長濱の連続速攻、さらに宮崎の得点で追い上げ、大同は東江が 7mT とミドルで得点を重ねる。中盤以降は双方強い DF と大崎・木村、大同・久保の両 GK の好守が光り、失点が少ない展開になる。終盤、大崎は 23 分過ぎに元木と植垣のカットインシュートで 20 対 21 と 1 点差に詰め寄る。その後大同は千々波の執念のポスト、東江のミドルで得点を重ね、大崎は宮崎の鋭いジャンプシュートと小澤のサイドシュートで 1 点差のまま、残り 80 秒で大同が退場者を出す。大崎は東長濱が残り 25 秒で同点、さらに残り 1 秒で決勝シュートを放ち、大崎が劇的な逆転勝利を収めた。

【男子準決勝】トヨタ車体　24（13 − 12、11 − 4）16　トヨタ自動車東日本

男子ファイナルの座をかけてトヨタ自動車東日本のスローオフで開始。序盤は、トヨタ車体 GK 甲斐を中心とした堅守から早い展開に持ち込みペースを掴み前半 10 分 5 対 2 とリードする。中盤以降、トヨタ自動車東日本も積極的に前に出るディフェンスから速攻、相手の隙をつく等で得点し離されない。前半はトヨタ車体・甲斐、トヨタ自動車東日本・関口の好セーブもあり引き締まった展開となり 13 対 12 トヨタ車体のリードで折り返す。

後半立ち上がりもトヨタ車体・甲斐の好セーブや松村の 7mT 阻止でリズムを掴み、速い展開に持ち込み得点を重ね引き離しにかかる。中盤もトヨタ車体・門山のミドルシュートによる 3 連取や松村の 2 本目となる 7mT 阻止で勢いにのり 23 対 16 とし、点差を 7 点に離す。トヨタ自動車東日本も 7 人攻撃を仕掛けるなど最後まで諦めない姿勢を見せるが、トヨタ車体の GK 甲斐、終盤代わって出場した松村の好セーブに阻まれなかなか得点できない。後半勢い乗ったトヨタ車体が 24 対 16 で勝ち、ファイナル進出を決めた。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

戦評

【男子決勝】 大崎電気　31（16－14、11－13、1－2、3－1）30　トヨタ車体



　2016年を締め括る日本選手権男子決勝は、連覇を狙うトヨタ車体と2年ぶりの日本一を目指す大崎電気の対決となった。大崎電気のスローオフで試合開始。立ち上がり大崎・信太の連続得点からゲームは動き出す。車体は渡部のサイドシュートや回り込んでのミドルシュートを決めて譲らない。中盤以降もお互い得点を重ね、両者譲らない展開が続く。前半終了直前、元木がミドルシュートを決め、16対14で大崎が2点リードして前半を折り返す。

　後半序盤はトヨタ車体が、両サイドの藤本・渡部を中心に得点を重ねるのに対し、大崎は、速い展開に持ち込もうと速攻やリスタートを仕掛ける。中盤は、甲斐を中心としたトヨタ車体の堅いディフェンスで大崎の攻撃を凌ぐと、津屋の速攻も飛び出し、後半20分24対22でトヨタ車体が2点リードで終盤を迎える。24分に東長濱のカットインで追いつくと両者譲らず、大崎・宮﨑のミドルで離すも、トヨタ車体・門山の速攻で追いつくと、その後、両者得点のないまま30分終了。男子決勝も延長戦に突入。

　延長は、トヨタ車体・高知がミドルを2本決めると松村も7mTを阻止。大崎も森がポストから連取する。後半4分、大崎木村が7mTを阻止。終了直前、大崎・信太がミドルを決め勝ち越すとそのままタイムアップ。大崎電気が、2年ぶりの優勝を決め2016年を締めくくった。

【女子準決勝】 北國銀行　26（11－8、15－10）18　大阪体育大学



2点共　写真提供：スポーツイベント社

　スローオフ直後、センター横嶋のフェイントから大体大のディフェンスを崩し鰍場のサイドシュート、石野のカットインで得点し、4対1と北國銀行がリードした所で大体大楠本監督はタイムアウト。大体大はダブルポストにしてからの展開を試み、谷、佐々木らがロングを打ち込むが、北國銀行・寺田がことごとくはじき返す。負けじと大体大・馬場もカットイン、7mTを好セーブする。残り5分を切ったところで、谷の連続得点で3点差まで追い上げる。北國銀行・永田がポストを引っかけ残り1分で退場処分となる。しかし、このチャンスを大体大は活かしきれず、11対8で前半終了のブザーが鳴った。

　後半開始直後、北國銀行が数的不利な状況の中、大体大は佐々木のロングで1点差まで詰め寄る。15分まで大体大はセットディフェンスで粘り強く守るが、オフェンスでのミスが目立つ。これを北國銀行が着実に速攻で決め、5点差をつけた。その後、北國銀行・永田のパワフルなポストプレーなどを止めきることができない。大体大も松本のサイドシュートなどで応戦するが26対18で北國銀行が勝利し試合終了となった。インカレ女王大体大の最後まで諦めない姿が感動を呼んだ。

戦　評

【女子準決勝】 オムロン　25（12－9、13－11）20　三重バイオレットアイリス

開始30秒、オムロン・東濱のカットインで試合は動き出す。両者とも、スピードあるプレーで攻防を繰り返すが、開始10分、三重・万谷、加藤のミドルシュートなどで3連続得点し、流れを掴んだかと思われた。しかし、オムロンも松尾のスカイプレー、永田のポストプレーなど3点連続で取り返し、開始20分で7対7の同点とする。流れに乗ったオムロンは、勝連のサイドシュートや吉田のロングシュートで加点し前半12対8オムロンリードで折り返した。

前半の勢いを止めることなく、後半開始後もオムロンはポストの永田を起点とした攻撃で、吉田のロングシュートや7mTなどで得点を重ねる。対する三重も多田のカットインで応戦するも、オムロンGK宮川の好セーブに阻まれる。三重もGK山根を軸とした固い守りから、追い上げをはかるが差を詰めることができず、25対20でオムロンが勝利し、決勝戦へと駒を進めた。



【女子決勝】 オムロン　28（12－13、12－11、2－1、2－0）25　北國銀行

今大会連覇を狙う北國銀行と、昨年のリベンジを目指すオムロン。昨年同様のマッチアップとなった女子ファイナル。立ち上がり、オムロン・吉田のロングシュートで勢いにのりオムロンが4対1とリードを広げる。北國銀行は後藤のポストプレー、鰍場・田邉の両サイドの得点で点差を詰めるが、オムロンGK山中の好セーブもあり前半20分で8対6となる。残り10分、オムロンは退場者をだすものの、固いDFで無失点で乗り切るなど流れを渡さない。両チームとも一進一退の攻防が続くが、北國銀行・田邉の得点で北國銀行が巻き返し、12対13北國銀行リードで前半を折り返した。

後半開始直後、前半の勢いをそのままに北國銀行・河田の3連続得点でさらに流れにのる北國銀行。一方オムロンも石井を投入してから、永田にボールを集め点差を縮め、10分には同点に追いつく。15分、北國銀行・角南の速攻・サイドシュートの連取で北國銀行がリードを奪うも、オムロンも永田の体を張ったプレーで、チームを鼓舞し残り2分で同点に追いつき、延長戦に持ち込んだ。

第1延長、オムロン・東濱のカットインで先取するも、北國銀行も河田の7mTで反撃する。オムロンの1点リードで延長前半を折り返すと、始まった後半、オムロン・東濱のロング、そして勝連のサイドシュートでオムロンが2得点し、オムロンが28対25で勝利し、昨年のリベンジを果たし優勝した。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

男子代表監督にダグル・シグルドソン氏就任決定！

男子代表監督に、現ドイツ代表監督の、ダグル・シグルドソン氏（アイスランド出身）が就任することに決定いたしました。
2017年男子世界選手権終了後、2月より日本代表チームの指揮を執ることになります。



ダグル・シグルドソン　Dagur Sigurdsson
1973年4月3日生まれ（43歳）
アイスランド、レイキャヴィーク出身
身長195cm、元アイスランド代表キャプテン

選手歴

－1996	バルー（アイスランド）（Island Valur Reykjavík）
1996－2000	ヴッパータール（ドイツ）（Deutschland LTV Wuppertal）
2000－2003	湧永製薬（日本）（Wakunaga Hiroshima）
2003－2007	ブレゲンツ（オーストリア）（Österreich A1 Bregenz）

監督歴

2003－2007	ブレゲンツ（オーストリア）（Österreich A1 Bregenz）〈選手兼監督〉
2008－2010	オーストリア代表
2009－2015	フクセ・ベルリン（ドイツ）（Füchse Berlin）
2014－	ドイツ代表

バルー・レイキャビク（is:Knattspyrnufélagið_Valur）に所属、5度のリーグ優勝に貢献。
1996年、ドイツLTVヴッパータール（de:LTV Wuppertal）2部リーグにて、1部リーグ昇格に貢献。
2000年から日本リーグの湧永製薬（ワクナガレオリック）に移籍、全日本実業団選手権優勝に貢献。
2003年からオーストリア・ブレゲンツのA1ブレゲンツ（de:A1 Bregenz）に選手兼任コーチとして在籍。
2007年からバルー・レイキャビクに戻り選手兼任監督として活躍。
2008年3月からオーストリア代表監督と兼務。
2009年、ベルリンにあるドイツ1部のフュックセ・ベルリン（de:Füchse Berlin）監督に就任。
2014年8月、ドイツ代表監督就任。
アイスランド代表としては、キャプテンとして215試合出場、397ゴール。
1997年世界選手権5位、2002年欧州選手権4位、2004年アテネ五輪9位。

主な経歴

選手として
アイスランドリーグ優勝（Isländischer Meister）――1991, 1993, 1994, 1995, 1996
アイスランドカップ戦優勝（Isländischer Pokalsieger）――1993

選手兼監督として
オーストリアリーグ優勝（Österreichischer Meister）――2004, 2005, 2006, 2007
オーストリアカップ優勝（Österreichischer Pokalsieger）――2006

監督として
【フクセ・ベルリン】
EHFチャンピオンズリーグファイナル4進出（EHF Champions League）――2011/12
ドイツカップ優勝（DHB-Pokalsieger）――2014
ヨーロッパカップ優勝（EHF Europa Pokal）――2015
【ドイツ代表】
世界選手権7位――2015
ヨーロッパ選手権優勝（Europameister）――2016
リオデジャネイロオリンピック銅メダル――2016



その他
ブンデス・リーガ最優秀監督賞（Trainer der Saison）――2011
IHFコーチ・オブ・ザ・イヤー（IHF Welttrainer des Jahres）――2015





4点共　写真提供：スポーツイベント社

高松宮記念杯男子第59回・女子第52回

平成28年度 全日本学生 ハンドボール 選手権大会

日時：平成28年11月19日(土)～23日(水)
会場：アスティとくしま、松茂町総合体育館、
北島北公園総合体育館、アミノバリューホール

最終順位

	男子	女子
優　勝	国士舘大学	大阪体育大学
準優勝	明治大学	東京女子体育大学
3　位	大同大学 中央大学	筑波大学 桐蔭横浜大学

個人表彰

男子

【優秀選手賞】
小峰大知（国士舘 GK）
安倍竜之介（国士舘 CP）
玉川裕康（国士舘 CP）
吉野樹（明治大 CP）
門間優次郎（明治大 CP）
原田一沙（大同大 CP）
杉岡尚樹（中央大 CP）
【特別賞】
斎藤大生（国士舘 CP）
山田信也（明治大 CP）
【優秀監督賞】
藤村孝司（国士舘）

女子

【優秀選手賞】
馬場敦子（大体大 GK）
中村桃子（東女体 GK）
松本ひかる（大体大 CP）
秋山なつみ（大体大 CP）
佐々木春乃（大体大 CP）
近藤万春（大体大 CP）
尾﨑佳奈（東女体 CP）
【特別賞】
三田未稀（東女体 CP）
岩﨑成美（筑波大 CP）
林　美里（桐蔭大 CP）
【優秀監督賞】
楠本繁生（大体大）





総　評

中四国学生ハンドボール連盟
理事長　浅野幹也

男子第59回・女子第52回平成28年度全日本学生ハンドボール選手権大会（平成28年11月19日～23日）が徳島県徳島市・鳴門市にて初めて開催されました。四国での全日本インカレは、平成4年度の愛媛県松山市での開催以来、実に24年ぶり2回目の開催となりました。主管である中四国学生ハンドボール連盟と徳島県ハンドボール協会は、4年後の東京オリンピックにおけるターゲットエイジとなる学生選手らにとって意識高揚の機会となることを期待し、是非とも記憶に残る大会にしようと準備を進めて参りました。本大会のメイン会場となる徳島県立産業観光交流センター（アスティとくしま）は体育館ではありませんが、広大な敷地面積を持つ多目的ホールにタラフレックスを敷き、学生選手らにとって、上位に進出してメインコートでプレーすることへのモチベーションを高揚させるべく、好環境のコートを設営いたしました。これも「2020東京オリンピック徳島県キャンプ地誘致キャンペーン事業」より助成を受けて実現したことであります。

開会式もメイン会場において開催し、前年度優勝校である男子・日本体育大学ならびに女子・大阪体育大学による優勝旗返還が行われました。続いて、主管学連を代表して、男子は高松大学・久米純平主将と女子は環太平洋大学・田中花実主将より選手宣誓が行われました。式典の終わりには、今年の6月26日～7月3日の期間、スペイン・マラガにて開催された第23回世界学生選手権に出場した選手・スタッフの紹介と活躍を多目的ホールの大型モニターに披露いたしました。男子第4位・女子第5位と球史に残る好成績を収めたことを讃えるとともに、4年後に控えた東京オリンピックへの士気高揚を目的に作成したものです。事前には、公益財団法人日本ハンドボール協会より蒲生晴明副会長兼専務理事の挨拶があり、東京オリンピックへの覚悟と学生選手らへの熱い叱咤激励に、会場全体が引き締まった空気に包まれたことは非常に良かったと感じております。

式典後には、地元徳島市の阿波踊り振興協会より阿波踊りの披露があり、会場を和ませていただきました。また、主管学連からの出場校である環太平洋大学より、学生日本一の実力を誇るマーチングバンド部による迫力ある演技を披露していただき、学生らは大いに魅了され大盛況でありました。

今年度初めの全日本学連第1回役員会・同総合役員会にて、今後における全日本インカレへの出場チーム数は、男女ともに32チームと議決されました。1回戦は男女ともに16試合が4会場5コートによって行われ、初日から接戦の好ゲームが展開されました。特に女子においては、関東学連から初出場の玉川大学と、出場チームの中で唯一の短大チームである環太平洋大学短期大学部の善戦は、女子チームの出場数を増加させた意義のあることと思います。さらに、初戦から2回戦、大会3日目の準々決勝に至るまで、連日の接戦を制してきた男子・大同大学と女子・桐蔭横浜大学の躍進は特筆すべきでありましょう。チーム全体が小柄でありながら、スピーディーで精度の高いプレースタイルを確立してきた東海学連の雄である大同大学は、準決勝においても体格差が大きく上回る国士舘大学に対し、最後までしぶとく食い下がるファイティング・スピリットが印象に残りました。また、延長戦に縺れ込み、白熱したゲーム展開の中、ベスト4常連の大阪教育大学に1点差で粘り勝ちした桐蔭横浜大学は、大健闘であったと思います。

今年度は、ベスト4において男女ともに東地区が3チーム、西地区から1チームが残る結果となりました。準決勝は、男子において前述した他に、明治大学が中央大学に延長戦において、終始、迫力あるスリリングなゲーム展開の中、1点差で逃げ切る好ゲームが展開されました。決勝は、女子においては3年連続で大阪体育大学と東京女子体育大学との対戦となりました。世界で第4位の好成績を残した学生ナショナルチームは、ほぼ大阪体育大学の選手らで構成されており、国内大会においても、世界での成果の具現化を見事に成し遂げられた結果でありました。年末の日本選手権において、圧倒的な強さを持って4年連続でインカレを制している大阪体育大学が、日本リーグ勢と互角に戦う期待を大いに持てました。また男子では、体格差を優位に活かし、6年ぶり3回目の優勝を遂げた国士舘大学には、日本のハンドボールが4年後の東京オリンピックにおいて躍進できる可能性を感じました。このように、男女ともに世界の舞台で活躍する期待の持てる選手の台頭が目覚ましかった大会であり、学生選手らにとって今大会がその飛躍の一助になったならば幸いと存じます。

最後に、今大会は、地元中四国ブロックのトレーナー部会の皆様に選手のサポートをしていただき、大きな怪我も生じることもなく、大会を終えられたことに安堵しております。また、開催にあたり多大なるご支援とご指導を賜りました（公財）日本協会・全日本学連・徳島県協会・中四国学連の皆様に感謝申し上げます。皆様のお蔭をもちまして、大会を無事、成功裏に終えることができました。改めまして、ここに深く感謝の意を表します。誠にありがとうございました。



［男子優勝］ 国士舘大学（6年振り3回目）

国士舘大学ハンドボール部監督　藤村 孝司

はじめに、高松宮記念杯男子第59回平成28年度全日本学生ハンドボール選手権大会の開催にあたり、徳島県ハンドボール協会及び中四国学連をはじめとします、関係各位に心より感謝申し上げます。

この度の大会において6年ぶり3回目の優勝を達成することができました。これもひとえに日頃よりご支援・ご声援をいただきました皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

本年4月より、元全日本選手で昨年まで大崎電気オーソルで選手として活躍していた、豊田賢治氏（国士舘大学OB）が専任コーチとしてチーム練習を総括してくれました。4年生を中心にチーム戦術として「全員ハンドボール」を目指してきました。個の能力を最大限に引き出し、連動性とカバーリング（二人・三人で助け合う）を柱としてトレーニングに取り組み、オリンピック世代として期待されている大型選手達にも事細やかに指導をしておりました選手達も必死にトレーニングに取り組んでくれたことが大会の結果に結びついたように思います。

春季リーグ戦を2位という成績で終え、しかしながら秋季リーグでは選手のケガ等の復帰によりチームがまとまらず6位と低迷しましたが、リーグ終了からインカレまでの約1ヶ月半の練習では、走り込み・ウエイトトレーニング・チームプレー等の確認及び理解の反復練習を行えたことで戦術の理解がより一層深まり、このインカレの準備ができたと思っております。

初戦、2戦目は試合の出だしから自分たちのDFのコンタクトが弱かったり、OFのミスから逆速攻を許したりしましたが、GK小峰選手の再三にわたるファインセーブに助けられ、チームが立ち直りました。3戦目の筑波大学戦では、春・秋季リーグ戦では一度も勝てなかったことを踏まえ、昨日の反省と修正を徹底させ全員ハンドボールに徹することができ、コンスタントに得点を重ねることでチームに勢いが出たと感じました。

準決勝の大同大学戦はU-24代表のセンタープレイヤーの原田、エースで弟の竜汰には要注意の指示をだしました。スタートからのリードを保ち決勝戦へと駒を進めることができました。決勝戦では、春季リーグ戦引き分け、秋季リーグ戦では大敗をしている明治大学戦でした。一進一退の攻防が続き、前半を16対13で終えましたが、GK小峰の調子が決勝戦という緊張からか前日までとの違いが気になりました。後半の中盤には22対21と追い上げられた場面もありましたが、ここからGK小峰のキーピングが戻りチーム一丸となり全員ハンドボールが機能し、34対26で優勝することができました。

最後に、国士舘大学ハンドボール部を応援してくださる保護者の皆様方、OBの皆様方と優勝する時間を共有できたことを幸福に思い、偉業を成し遂げてくれた選手達にあらためて感謝申し上げます。



［女子優勝］ 大阪体育大学 （4年連続5回目）

大阪体育大学女子ハンドボール部主将　佐々木 春乃

2016年4月14日に発生しました熊本地震により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地等におきまして、救援活動に尽力されている方々に深く敬意を表しますと共に、皆さまの安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。そのような中、高松宮記念杯男子第59回女子第52回全日本学生選手権大会を無事終えることができ、多大なるご支援、ご協力を戴きました関係者の方々に心より感謝申し上げます。

今年は、昨年インカレ優勝したメンバーがそのまま残りチームがスタートしました。チームがスタートしたときに楠本先生から今のメンバーに食い込んでいける、レギュラー争いができるような選手が出てこないと今年のインカレ優勝はないと言われ、日々の練習の中でライバル意識が高まり、ポジション争いが激化していきました。しかし昨年とメンバーがほとんど変わっていない分、自分たちがどれだけ成長しているのか全く分からず、このチームのままで優勝できるのかと悩むことも多く、それは徳島の地に入ったときも感じていました。

今大会は4連覇がかかっており、非常に大きなプレッシャーの中での戦いになり、初戦から準々決勝までの3戦はチーム状況も良いとは言えず、勝ちはしましたが自分に負け、気持ちの面で相手に負けていた試合内容となりました。ミスも多く、自分たちのハンドボールが全くと言ってできませんでした。「このままでは優勝できない」全員がそう感じました。相手の分析も大事であるが、相手どうこうではなく、まず自分たちがどうするべきかを考え、チャレンジャーの気持ちで準決勝の筑波大戦に臨みました。準決勝は課題も多く残りましたが、DFからFBという大体大のスタイルを取り戻し、再び決勝のコートに戻ってくることができました。決勝戦は昨年と同じく東女体大との対戦でした。立ち上がりはスタートダッシュに成功したものの、追い上げられる展開、13対9で前半を終了しました。気持ちを切り替え後半に挑み、一時は2点差まで詰め寄られましたが自分たちに焦りはなく60分間を優位に進めることができ、徐々に点差を離しインカレ4連覇を達成することができました

このような結果を残せたのも、いつも厳しく指導していただいた楠本先生をはじめ、これまでに大体大を築いて来られた先輩方、大学関係者の方々のおかげであります。心から感謝申し上げます。今後も驕ることなく、地道にコツコツと日々の練習を積み重ねていきたいと思います。ありがとうございました。

戦評：男子

準決勝

国士舘大学　33（15 − 10、18 − 19）31　大同大学

試合序盤、玉川のポストプレーや峰のキレのあるシュートで得点を重ね、国士舘大がリードをとった。対する大同大も原田のミドルシュートや連携の取れた攻撃で応戦するも国士舘大の高いディフェンスに阻まれ、一進一退の試合運びとなった。

後半、5点を追いかける大同大はパスカットからの速攻やサイドシュートも決まり、点差を縮められるかと思われたが、ゴールキーパーの活躍もあり更に得点を重ねた国士舘大がリードを保ったまま勝利した。



明治大学　33（14 − 13、14 − 15、4 − 3、1 − 1）32　中央大学

中央大のスローオフで試合開始。中央大・中野のゴールで先制点を奪う。その後もお互い点を取り合い拮抗したゲーム展開となる。中央大は、カットインやミドルシュートで得点を重ねリードするものの前半20分、明治大の速攻により逆転を許す。14対13明治大学のリードで前半を終える。

後半に入り、吉野のミドルシュートや木村のサイドシュートで得点を重ねる明治大。対する中央大は退場者が相次ぎリズムがつかめず15分にタイムアウトをとる。後半28分、中央大は速攻と下岡のサイドシュートで4点連取し明治大に追いついた。同点のまま終了し28対28で延長に突入。

延長前半、両チームともカットインやミドルシュートが決まり4対3明治大リードで折り返す。延長後半1対1で明治大がリードを守りきり、決勝へ駒を進めた。



決勝

国士舘大学　34（16 − 13、18 − 13）26　明治大学

前半、国士舘大学のスローオフで試合開始。斎藤のロングシュートで国士舘大が先制、序盤から高さを生かしたロングシュートが効果的に決まり、国士舘大が主導権を握る展開となった。明治大は前半20分過ぎからDFシステムを6-0から3-2-1に変更、そこから国士舘大のリズムを崩し、点差を詰め、16対13の3点差の国士舘大リードで前半を折り返した。

後半、明治大・門間のサイドシュートを皮切りに国士舘大に詰め寄るが、国士舘大は玉川を中心に体格を生かした攻めを展開、吉野のスピードを生かした明治大と一進一退の攻防を展開した。明治大は吉野、中川などで再三チャンスを作るものの、国士舘大GK小峰の好セーブに阻まれ、流れがつまめないまま、終盤へ。後半25分国士舘大・阿部のロングシュートなど5連取で勝負を決定づけた。最終34対26で国士舘大が6年振り3回目の優勝を果たした。





4点共　写真提供：スポーツイベント社

戦評：女子

準決勝

大阪体育大学　35（16－11、19－9）20　筑波大学



大体大のスローオフでゲームがスタート。佐々木7mTで先制するが、筑波大は、すぐさま河原畑のカットインで取り返す。その後、大体大は秋山の速攻を皮切りに8点連取し、9対1とリードを拡げる。対する筑波大は田村からの4点連取や7人攻撃によって反撃を開始するが、大体大は馬場のゴールキーパースローによる得点等により流れを渡さない。

16対11大体大リードで折り返した後半、大体大は堅守から佐々木3点連取を含む7連続得点により最大14点のリードをする展開となった。筑波大は河原畑を中心に個を活かした攻撃で喰らいつくものの後半21分からの4点連取で勝負あり、大体大の安定した試合運びが光った試合であった。

東京女子体育大学　30（15－9、15－9）18　桐蔭横浜大学



前半、東女体のスローオフでゲームスタート。中島のロングシュートにより先制点を挙げた東女体は4点連取で流れを掴む。一方、桐蔭大も林、平松を中心に得点を挙げるが差を縮めることができない。流れを変えたい桐蔭大は、14分過ぎから3-2-1ディフェンス、相手退場時にはメンツーマンディフェンスを仕掛けて得点を狙うものの、東女体は斗米を中心としたパスワークから得点を重ね前半15対9の東女体リードで折り返す。

後半も堅い守りからの速攻を中心にリズムを掴んだ東女体が13分までに22対12と10点に差を広げた。追いかける桐蔭大も林を中心に巻き返しを図るが、終始安定したプレーを見せた東女体が30対18で勝利し決勝に駒を進めた。

決勝

大阪体育大学　27（13－9、14－8）17　東京女子体育大学

前半、大体大のスローオフ、佐々木のロングシュートで大体大が先制。その後近藤の速攻などで最大8点差までリードを広げる。対する東女体大はタイムアウトを起点に三田を中心とした攻撃で、大体大の固い守りを崩し、9対13を4点差まで詰め寄り、前半を終了した。



後半、東女体大は三田のカットインで得点するも、大体大は松本のサイドシュートで応戦。その後、一進一退の攻防が続く。15分過ぎからの大体大の4本の速攻を含む連続得点により、有利にゲームを進め、勝利を決定づけた。最終スコアは27対17で大体大が勝利。4年連続5回目となる優勝の栄冠を勝ち取った。



4点共　写真提供：スポーツイベント社

インカレ初出場校

玉川大学（女子）

井口 京子

部発足の歴史

玉川大学ハンドボール部は1979（昭和54）年5月に同好会としてスタートした。女子部は1986（昭和61）年に関東学生リーグに初参加し、1991年から東日本インカレに4年連続出場している。関東学生リーグでは、人数が揃わず参加できなかったことや6人で試合に臨んだこともあったが、2007年秋季リーグ女子2部で初優勝を果たす。

玉川大学では、創部より部活動での推薦入学はなく、小学生から競技を始めた学生から、大学入学後にハンドボールを知った学生まで競技歴も幅広い。また、普段の練習は週4～5日、時間は2～3時間が基本。その中でも、授業や実習などで練習に参加できない学生も多い。今回のインカレ出場校の中では最も練習量が少ないかもしれない。しかし、それらをハンドボールに取り組む姿勢と集中力でカバーしている。

出場への道筋

今年度は、関東学生春季リーグ女子2部において17シーズンぶりに優勝し東日本インカレに出場。しかし、春季リーグ後にチームの中心であるキャプテン井上が前十字靭帯断裂で戦線離脱。8月9日～11日花巻市で行われた東日本インカレでは、出場できない井上の分まで3年生平山を中心にチーム一丸となって総力戦で初戦の北海道教育大学岩見沢に38対12、富山国際大学に22対19、東北福祉大学に26対18で勝利し、全勝でｂブロック優勝となり、インカレ初出場を決めた。

東日本インカレ後の関東学生秋季リーグでは、4年生不在のメンタル面での不安を露呈し、他大学の最後の学生リーグにかける4年生の気迫におされ4位に終わる。インカレではメンタル面を整えて、秋季リーグ4位の悔しさを晴らす。

大会への抱負

初勝利を目指す。4年生不在でメンタル面の不安はあるが、キャプテン井上、平山、長谷川（綾）、安藤の3年生4名を中心に、2年生8名、1年生4名の16名の部員が「心をひとつに」玉川らしく楽しむハンドボールをすること。また、練習でも試合でも「ミスは大きく」と伝えています。ハンドボールは元来ミスの起こるスポーツです。小さなミスでは相手に大きなチャンスを与えてしまいますが、大きなミスであれば相手に大きなチャンスは生まれないという考えです。インカレという大舞台でも、いつも通りに「大きなミスを」と送り出します。

インカレ初出場にあたり、ご協力ご支援いただきましたOB・OG、関東女子2部でともに戦った各大学はじめ、多くの方々に感謝申し上げます。選手・スタッフ一同、初勝利にむけて全力で戦います。





サイドレポート

数えて男子第59回・女子第52回となる今大会は、第1回は男子が1958年東京で16校が参加（東北大学・東北学院大学・中央大学・東京教育大学（現：筑波大学）・茨城大学・順天堂大学・日本体育大学・芝浦工業大学・東京大学・愛知学芸大学（現：愛知教育大学）・静岡大学・名古屋大学・関西大学・京都大学・立命館大学・山口大学）、女子は1965年東京で4校が参加（中京大学・日本体育大学・日本女子体育大学・東京女子体育大学）した歴史在る大会ある。大通算出場回数では、男子が日本体育大学と筑波大学、女子では日本体育大学と東京女子体育大学が第1回から連続して出場しているのが傑出している。又、女子では新潟大学が17年ぶり、愛知教育大学が14年ぶりに戻り、何れも初戦は突破できなかったものの大会を盛り上げていた。更に、大会期間中にはドーピング検査も行われており、試合の後半終了10分前に検査対象となる選手が抽選で選ばれ、試合後にはシャペロン（エスコート役）に付き添われて検査会場へと向かっていた。2020オリンピックを控え、アンチドーピングの啓発は若い世代の選手自身にとっても大変重要な事柄の一つである。

徳島での大会開催は初めてではあるが、他のカテゴリーでの全国大会等の運営の経験も充分にあり、運営面では細かな配慮も行き届いていた。メイン会場となった「アスティとくしま」（徳島県立産業観光交流センター）は1993年に竣工した県下で最大級の施設であり、ハンドボール会場としては申し分の無い場所でハンドボール専用コートも敷き、見栄えも充分であった。又、徳島県が進める「2020東京オリンピックキャンプ地誘致キャンペーン事業」の一環として大会運営されていた。徳島県では2020オリンピックのキャンプ地誘致に向けた交流プログラムを開拓しており、本年2月には徳島県の招きでドイツ・ニーダーザクセン州のハンドボール協会のヴォルフガング・ウルリヒ会長ら4人が、徳島県庁に飯泉嘉門知事を表敬訪問し、その後、徳島市立体育館で県内のクラブチームの小中学生に指導を行っている。

県内の状況を見れば、大学には徳島大学と鳴門教育大学にハンドボール部があるが、ハンドボールのチーム数・競技人口も多いとは言えず、先ずはジュニア層の育成として、徳島・鳴門・池田を拠点とした総合型スポーツクラブ等との連携も進めているとのことである。

来年度・石川県・金沢が会場と予定されている男子60回記念大会、特別な企画もあるのか、今から楽しみである。

歴代優勝回数（大会終了後）

男子		女子	
日本体育大学	23回	日本体育大学	17回
大阪体育大学	9回	東京女子体育大学	16回
芝浦工業大学	8回	筑波大学	11回
早稲田大学	4回	**大阪体育大学**	**5回**
中央大学	3回	大阪教育大学	2回
筑波大学	3回	武庫川女子大学	1回
国士舘大学	**3回**		
立教大学	2回		
法政大学	1回		
日本大学	1回		
名城大学	1回		
中部大学	1回		

歴代開催地と男女の優勝校（今大会まで）

年度	開催地	男子		女子	
		回	優勝校	回	優勝校
1958	東京	1	芝浦工業大学		
1959	西宮	2	芝浦工業大学		
1960	東京	3	芝浦工業大学		
1961	豊中	4	芝浦工業大学		
1962	仙台	5	芝浦工業大学		
1963	東京	6	立教大学		
1964	広島	7	芝浦工業大学		
1965	東京	8	芝浦工業大学	1	日本体育大学
1966	大阪	9	芝浦工業大学	2	日本体育大学
1967	東京	10	立教大学	3	日本体育大学
1968	松山	11	日本体育大学	4	日本体育大学
1969	東京	12	日本体育大学	5	東京女子体育大学
1970	大阪	13	日本体育大学	6	日本体育大学
1971	東京	14	日本体育大学	7	日本体育大学
1972	大阪	15	日本体育大学	8	日本体育大学
1973	東京	16	法政大学	9	日本体育大学
1974	仙台	17	早稲田大学	10	日本体育大学
1975	福岡	18	中央大学	11	東京女子体育大学
1976	名古屋	19	中央大学	12	日本体育大学
1977	大阪	20	日本体育大学	13	東京女子体育大学
1978	東京	21	日本体育大学	14	東京女子体育大学
1979	福岡	22	日本体育大学	15	東京女子体育大学
1980	大阪	23	早稲田大学	16	筑波大学
1981	東京	24	中央大学	17	日本体育大学
1982	名古屋	25	大阪体育大学	18	筑波大学
1983	仙台	26	筑波大学	19	日本体育大学
1984	金沢	27	日本大学	20	日本体育大学
1985	山口	28	大阪体育大学	21	日本体育大学
1986	京都	29	国士舘大学	22	東京女子体育大学
1987	東京	30	大阪体育大学	23	東京女子体育大学
1988	福岡	31	早稲田大学	24	東京女子体育大学
1989	仙台	32	日本体育大学	25	日本体育大学
1990	愛知	33	日本体育大学	26	日本体育大学
1991	函館	34	日本体育大学	27	東京女子体育大学
1992	松山	35	大阪体育大学	28	日本体育大学
1993	金沢	36	大阪体育大学	29	東京女子体育大学
1994	京都	37	日本体育大学	30	東京女子体育大学
1995	仙台	38	名城大学	31	東京女子体育大学
1996	熊本	39	大阪体育大学	32	東京女子体育大学
1997	川崎	40	日本体育大学	33	東京女子体育大学
1998	名古屋	41	大阪体育大学	34	筑波大学
1999	函館	42	日本体育大学	35	筑波大学
2000	広島	43	大阪体育大学	36	筑波大学
2001	富山	44	大阪体育大学	37	東京女子体育大学
2002	大阪	45	日本体育大学	38	筑波大学
2003	青森	46	日本体育大学	39	筑波大学
2004	沖縄	47	筑波大学	40	筑波大学
2005	川崎	48	筑波大学	41	武庫川女子大学
2006	名古屋	49	日本体育大学	42	筑波大学
2007	函館	50	日本体育大学	43	筑波大学
2008	山口	51	日本体育大学	44	筑波大学
2009	金沢	52	日本体育大学	45	東京女子体育大学
2010	大阪	53	国士舘大学	46	大阪教育大学
2011	花巻	54	日本体育大学	47	大阪体育大学
2012	福岡	55	日本体育大学	48	大阪教育大学
2013	甲府	56	早稲田大学	49	大阪体育大学
2014	岐阜	57	中部大学	50	大阪体育大学
2015	函館	58	日本体育大学	51	大阪体育大学
2016	徳島	59	**国士舘大学**	52	**大阪体育大学**

第25回 JOCジュニアオリンピックカップ2016 ハンドボール大会

開催期日：平成28年12月23日(金)～27日(火)
会　　場：浦添市民体育館、豊見城市民体育館

写真提供：スポーツイベント社

大会を振り返り

大会事務局総務委員長　新垣 裕己



昨年度に引き続き、南国の地、沖縄県で第25回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が、平成28年12月23日（金）～27日（火）の5日間、浦添市民体育館をメインに豊見城市民体育館の両会場で開催されました。本大会は、全国25,818名の中学生ハンドボーラーの中から勝ち抜いた男女748名が沖縄県に集い、日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成を行うことが第一の目的であります。

沖縄県はハンドボール競技者が全国で5番目に多い県ですが、県民人口比では飛び抜けて1位を誇ります。また、メイン会場である浦添市は日本のハンドボール界にとって画期的なことである「ハンドボール王国都市宣言」をしている街です。全国優勝も全カテゴリーを通して71回を数え、このJOCカップも男女8回の優勝を成し遂げています。このようなハンドボールが盛んな地にて、日本のユース世代最高峰の大会が開催されることは誠に意義深く、感謝に堪えません。

また、本大会は第25回記念行事として、世界選手権等で行われる予選リーグ2位チームを対象としたエキシビジョンマッチトーナメントを、沖縄県ハンドボール協会が主催し、日本の全国大会で初めて実現することができました。エキシ





写真提供：スポーツイベント社

最終順位

男子

優　勝：大分県選抜
準優勝：福岡県選抜
３　位：広島県選抜、浦添市選抜

女子

優　勝：大分県選抜
準優勝：熊本県選抜
３　位：東京都選抜、石川県選抜

個人表彰

男子

■オリンピック有望選手	該当者なし	
■最優秀選手	後藤俊介	大分県選抜（大分市立滝尾中））
■優秀選手	三谷光翼	愛知県選抜（名古屋市立滝ノ水中）
	狩野直樹	埼玉県選抜（さいたま市立田島中）
	伊禮雅太	浦添市選抜（浦添市立神森中）
	松本大昌	山口県選抜（岩国市立岩国中）
	西原雄聖	浦添市選抜（浦添市立神森中）
	森本大貴	愛知県選抜（名古屋市立滝ノ水中）
	野上遼真	大分県選抜（大分中）

女子

■オリンピック有望選手	橋口和佳奈	熊本県選抜（宇城市立松橋中）
■最優秀選手	清水愛加	大分県選抜（大分市立原川中）
■優秀選手	藤原ひなた	岩手県選抜（花巻市立花巻中）
	長谷川真子	福岡県選抜（福岡市立松崎中）
	一ノ宮　萌	熊本県選抜（宇城市立松橋中）
	高橋弥那	東京都選抜（武蔵村山市立第五中）
	上嶋亜樹	石川県選抜（小松市立芦城中）
	柿添まどか	熊本県選抜（玉名市立玉名中）
	髙橋　唯	大分県選抜（大分市立滝尾中）

ビジョンマッチトーナメントに出場された全チームからの意見は集約できていないものの、チーム役員からは好評の声をいただくことができ、白熱した交流トーナメントが展開されたと伺っております。これは、真剣勝負の緊張感で、できるだけ多くの試合経験を積んでもらいたいという、本大会の趣旨とマッチした試みでもあったと考えております。今後は全チームから事後アンケートを集約・分析・公表することを通して、次年度開催に向けて本協会で検討していきます。更には沖縄県ハンドボール協会の審判員にとっても、全国大会を吹笛するという貴重な経験をさせていただき、本県審判員の育成に寄与する貴重な大会ともなりました。

さて、本大会は第９回に沖縄県が男女アベック優勝をして以来、16 年ぶりとなる大分県選抜の男女アベック優勝で幕を閉じました。決勝トーナメントでは、どの試合も１点を争う大接戦ばかりで、選手のみなさんの最高のパフォーマンスが発揮されていました。それは、間違いなく観ていた観客や県内の中学生に夢と感動を与えるものとなり、大会総務委員長として、これ以上に喜ばしいことはなく、胸に熱いものがこみ上げてきたことを覚えています。

最後になりましたが、沖縄県で開催するにあたり、多大なるお力添えをいただきました（公財）日本ハンドボール協会をはじめ、各ブロック、各チーム関係者の皆様、審判員の皆様に、改めて厚く御礼を申し上げます。地元役員や県内の中学生ハンドボーラーにとりましても、全国のハンドボールを間近で体感することができ、「沖縄県はこのままでは全国では通用しない、チーム沖縄となって子供たちのためにハンドボールを研究しよう」と熱く語ることもできました。次年度は夏の全国中学校ハンドボール大会、冬の JOC ジュニアオリンピックハンドボール大会共に沖縄県で開催されます。本大会の運営で得た反省点を生かし、次年度さらに選手の皆さんが実力を発揮し、沖縄に来てよかったと思える大会となるよう改善することを誓い、大会報告といたします。みなさまの御来沖に感謝いたします。ありがとうございました。





男子優勝 大分県選抜（4年ぶり2回目）

大分県男子監督　瀧元 泰昭

この度のJOCジュニアオリンピックカップにおいて大分県勢として初の男女アベック優勝という成績を収められたことを大変うれしく思います。同時に、大分県ハンドボール協会をはじめとする多くの方々から支えていただき、そして励ましの声をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

県勢の男子としては4年ぶり2回目の優勝になります。4年前の優勝後、毎年のように「自分たちも」の思いで、練習に取り組んだ、たくさんの先輩たちの思いを成し遂げた瞬間でした。優勝後、生徒たちが男女で円陣を組んだ姿はとても印象深く記憶に残っています。

3年生は夏の大会が終わり、短い準備期間でしたが、九州大会を乗り越え、全国大会へ向けしっかりとやるべきことを理解し、全国のライバルとどう戦うかを考え取り組んだ4ヶ月間でした。この4ヶ月間、質の高い練習を重ねることができたのも練習する環境が恵まれていた事、そしてコーチの田中宗治先生の粘り強い指導があったからです。

最後に、今大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた関係機関、関係各位の皆様に改めて、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

大分県男子主将　波津久 嵩登

自分たち大分県選抜は、中学校生活最後の大会で、一試合でも多くコートで試合が出来るよう、すべてのことに全力で挑み、全員が強い信念を持って挑みました。

予選リーグの一回戦、兵庫県選抜戦では、初戦ということもあり緊張していましたが、シュートを一つ一つ丁寧に打つように心がけました。試合では仲間同士で声を掛け合い、一丸となって立ち向かうことができました。この勝利でチームに勢いがつき、連戦となった徳島県選抜にも自分達の良さを多く出すことができ、予選リーグを突破することができました。決勝トーナメントでは、一回戦で埼玉県選抜と対戦しました。相手チームは個人レベルが高く、スピードと体格で勝る選手が多くいたため、苦戦しましたが、後半に入ると速攻がつながり、そのまま逃げ切り勝つことができました。準決勝、広島県選抜戦では、技術的に優れた選手が多くいたため、相手の巧みなセットオフェンスに対応することを意識しました。連戦の疲れを出さず、常に足を動かすことを心掛けて挑むことができました。

決勝では九州予選で敗れた福岡県選抜との対戦でした。予選後も、練習試合を繰り返し、手の内を知り尽くした相手でした。後半の序盤で3点差をつけられる苦しい展開でしたが、焦ることなく粘り強く守り抜き、得点を重ね、優勝をつかみ取ることができました。監督やコーチから言われてきた課題である「気持ちの弱さ」の克服ができた瞬間だと思います。試合後歓喜の輪の中で監督やコーチを胴上げするという忘れ得ない経験をさせていただくことができました。

今回優勝できたのは、練習場所を提供して頂き、力をつけさせて頂いた大分市内の高校のチーム、関係者、先輩の方々、また毎日送迎、応援して下さった保護者の皆様のお陰です。そして毎日指導してくださった監督やコーチ、ともに練習したチームメイト、支えてくださったすべての方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。



2点共　写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

女子優勝 **大分県選抜**（12年ぶり3回目）

大分県女子監督　甲斐 万起子

このたび、記念すべき第25回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会において、優勝することができました。また、男女アベック優勝ということで、喜びもひとしおです。大会準備、運営に携わってくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

今回のメンバーには、昨年度のJOC全国大会や春の全国大会を経験した選手がいて、可能性を感じていました。『日本一』という目標を掲げ、練習をスタートさせましたが、その道のりは前途多難なものでした。不運な条件が重なり、夏の全国大会という大舞台を踏むことができず、それが『日本一』を目指すチームにとって不安材料のひとつになるかもしれないと感じていました。

九州大会では、その不安が的中し、代表権を勝ち取ることはできたものの、一度失敗をすると立て続けにミスや失点を繰り返す「負の連鎖反応」が起きました。日本一を達成するために必要不可欠だった「堅守速攻」は影を潜めました。

九州大会後、その状態からなかなか抜け出せないチームを見て、「目標を変えてもいいのではないか」と問いただしたこともありました。しかし、頑なに「目標は変えない。必ず『日本一』になる」と答え続ける選手たちの表情を見て、『日本一』に懸ける思いは上っ面なものではない、本物だと感じとることができました。チームの目標を達成させるために『自信』を持たせることこそが、私のすべき役割だと覚悟を決めました。

全国大会で見せたチームの姿は、九州大会からは想像できないものでした。試合中、数多くの苦しい場面に直面しても、臆することなく、お互いを鼓舞しあい、強い気持ちで立ち向かう選手たち。試合を重ねるごとに、強く、たくましくなっていくチーム。劇的に変化していくその輪の中に私自身がいられたことを大変嬉しく、幸せに思いました。また、今まで同じようにJOCの大会で『日本一』を目指しながらも、目標を果たせず、夢を後輩たちにたくしてきたOGメンバーの願いを叶えることができたことに安堵する思いでした。

今大会は、選手たちを輝かせ、これからの道を開く、大きな自信、経験となりました。大分県の宝となる未来ある16人には、今回の経験を活かして、新しいステージでも活躍してほしいと心から願っています。

最後になりましたが、大分県ハンドボール協会の皆様、愛情を持って選手たちを育てていただいた小中学校の指導者の先生方、いつも快く練習相手をしてくださった高校の先生方、先輩方、そして選手のために力を尽くし、全面的にサポートをしてくださった保護者の皆様、全ての方々の支えに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

大分県女子主将　後藤ほたる

『日本一』それが、私たち16人が初日に掲げた目標でした。

九州大会の時は、「勝ちたい」という気持ちはありましたが、根っこの部分では「不安」の方が大きく、自分たちの思うようなプレーができませんでした。熊本県との決勝戦でも、苦しい時間帯になると気持ちが空回りしてしまい、連続失点を繰り返して、大敗してしまいました。キャプテンとしても、自分のことで精一杯で、周りに目を向ける余裕がありませんでした。悔しさを噛み締めて、その後の練習では、もっと声をかけあおう、苦しい時間帯を乗り切れるチームになろう、ということを全員で意識しました。『日本一』がただの目標になっていた自分たちを奮い立たせて、本物のチームになるために練習を積み重ねました。

そして、全国大会本番。初戦は、出だしから自分たちのペースで試合をすることができ、その後の予選リーグ、決勝トーナメントでも、全員で大分の「守って速攻」を貫いて、決勝戦まで勝ち進むことができました。決勝戦は、またもや熊本県との対戦でした。しかし、九州大会の時のような「不安」はありませんでした。チーム全員に「絶対に負けたくない」という強い気持ちがありました。試合中、何度も苦しい時間帯がありましたが、声をかけあいながら、我慢の時間を乗り越え、目標にしていた『日本一』を達成することができました。試合終了のブザーが鳴った瞬間、「本物のチーム」になれたことを実感し、全員で喜びを分かち合うことができました。

今まで、私たちを支えてくださったたくさんの方々に『日本一』という形で恩返しをすることができて本当に良かったです。この4ヶ月間の経験は、これからハンドボールを続けていくための自信になりました。これからも、再び『日本一』を目指して頑張っていきたいと思います。

戦　評

男子

▼準決勝

大分県選抜　23（13-11、10-8）19　広島県選抜

試合は大分のスローオフで立ち上がり佐野、江藤、後藤らの得点で開始7分までに6得点をあげる。守っては野上の好セーブで1点しか与えない。6対1で大分が主導権を握った。対する広島は攻撃をツーポストにし、なんとか得点を取ろうとするが、リズムがつかめない。10分過ぎに広島は3-2-1DFへ変更、要所でマイボールを小先が巧みなパスワークでつなぎ、点差を縮める。河野の速攻のカットからの得点やステップシュートなどで前半、大分の2点リードで折り返す。

後半は両チーム一進一退の攻防が繰り広げられる。広島は井手のサイドやキャプテンの住吉のポスト、大分は後藤のロング、江藤などで互いに譲らない。攻撃力は互いに高く、シュートまでの展開力には目を見張るものがあった。勝敗の分岐点は大分・野上の再三のファインセーブにあった。決定的場面で長身を生かしたキーピングのみならず、巧みな駆け引きで相手シューターを翻弄した。攻めては佐野の個人技からのポストパスなどで徐々に突き放し、広島がDFシステムを6-0あるいはマンツーマンにしても慌てることなく、4点リードを保ち、大分が決勝へ駒を進めた。両チーム気迫溢れるプレーが随所に見られた。準決勝にふさわしい好ゲームであった。

福岡県選抜　24（11-11、13-12）23　浦添市選抜

前半、浦添のスローオフでスタート。出だしは両チームとも得点が取れず、2分が過ぎる。最初の得点は浦添・伊禮のカットインでゲームが動き出す。対する福岡も濱田のミドルシュートで取り返す。その後はお互いに得点を重ね、10分を過ぎて4対4の同点。中盤に入りお互いに退場者を出すも、一進一退の展開が続き、前半を11対11の同点で終える。

後半、福岡・安松のサイドシュートで始まる。序盤は福岡が素早いボール回しからリズムを掴むが、浦添GK西原がノーマークシュートをセーブ。続く攻撃で浦添・知念のポストシュートで同点にすると、伊禮、知念の速攻でリードを2点とし、流れをつかむかに思われた。しかし、福岡も江頭の連続得点で追いつく。中盤に入っても福岡の多彩なボール回しにより、ノーマークをつくるが浦添・西原のナイスセーブや、平田のカットイン、伊禮の速攻で後半17分、21対19と浦添がリードする。対する福岡も7mTを福永が冷静に決め、濱田のカットインで同点に追いつくと、早川のカットインで逆転。浦添もDFを5-1に変えてリズムを取り返そうとするが、福岡の鮮やかなポストとのワンツーパスにより2点差とされる。最後まで諦めない浦添も知念のポストシュートで1点差に迫るが、終了のブザーが鳴り、福岡が決勝に駒を進めた。

▼決勝

大分県選抜　20（10-10、10-9）19　福岡県選抜

九州勢同士の対戦となった決勝戦は、開始2分大分・後藤のロングで先制。対する福岡も濱田のカットイン、安松のループ、三原のカットからの速攻などで8分過ぎまでに4連取。序盤主導権を福岡が握った。その後大分も小浦のサイドなどで点差を縮めようとするが、福岡も松中のサイドなどで譲らない。ゲームが動いたのは、13分過ぎ、大分のタイムアウト後、野上の好セーブで流れに乗り、後藤のロングやカットイン、佐野のカットなどで21分過ぎには逆転に成功。福岡もすぐさま取り返し、前半は10対10の同点だった。

後半先制したのは福岡。安松のサイド、濱田の速攻などで序盤は終始リード。最大3点のリードを保ち試合は終盤を迎えた。好ディフェンスから流れをキープしたい福岡だったが福永の7mTを大分長身GK野上がファインセーブ。佐野のカットインで2点差になり、たまらず福岡はタイムアウト。その後大分は後藤のカットイン、守りを3-2-1DFへ変更。野上の好セーブからのロングスローで後藤が得点。22分ついに大分逆転に成功。その後福岡の怒涛の攻めを、大分・野上がことごとくシャットアウト。福岡・早川がカットから1点返すもその後タイムアップ。勝利の女神は、最後の最後勝負強さを発揮した大分に微笑んだ。

女子

▼準決勝

熊本県選抜　24（11-10、13-6）16　東京都選抜

熊本のスローオフで試合開始。熊本は開始早々、東京・布施にマンツーマンDFをつけて揺さぶりをかける。熊本は一ノ宮を中心に攻め、3対1とするが、東京も慌てず前半5分で4対4の同点とする。その後もお互いに譲らず前半11対10、熊本1点リードで折り返す。

後半開始早々、東京は足がよく動き逆転に成功。13対11の2点差とする。後半に入りここまで無得点だった熊本はタイムアウトをとり、メンバーを入れ替える。すると東京が2分間退場を出してしまう。その間に熊本は、松永のシュートで逆転。DFも3-2-1DFにきりかえ、リズムをつかみ、リードを広げる。東京も必死に反撃するが、及ばず、熊本が8点差で決勝進出を決めた。

大分県選抜　26（13-8、13-6）14　石川県選抜

前半、大分は清水を中心に、石川はセンターとポストのクロスから両バックプレーヤーのミドルシュートを中心に攻撃が展開される。7分51秒、5対2、大分3点リードで石川がタイムアウトをとるが、大分の6-0DFを崩せずに差が徐々に広がる。10分06秒に大分・高橋にマンツーマンDF、23分すぎには変則の5-1DFをし、大分オフェンスのリズムを崩そうとするが、大分・清水の視野の広いボールさばきからの得点や速攻などで点を積み重ね、前半は13対8と大分のリードで終える。

後半、石川は開始早々ダブルマンツーやマンツーマンディフェンスで大分のオフェンスのリズムを崩そうと試みる。最初は効果があったが、徐々に慣れだし、高橋唯のカットインや高橋舞のポストシュートなどで得点を重ね、最後は全選手出場で26対15と大分が勝利をおさめた。

▼決勝

大分県選抜　21（11-9、10-10）19　熊本県選抜

女子決勝は九州勢の対決。大分のスローオフで試合開始。大分は高橋のロングで先制。開始5分で4対1とするが熊本選抜も速攻の流れから足を止めず、大分の退場を足がかりに前半14分過ぎに逆転する。大分はそこから清水の組み立てから高橋を中心に攻め、前半を11対9の2点差で折り返す。

後半も両チーム足を止めず、DFからの速攻で攻め続けるが、熊本が米村のシュートで同点とする。そこから大分が竹下の2連続得点などで3点差とする。熊本も速攻からの得点で1点差とするが、残り1分大分は後藤のフリースローからのロングシュートでとどめを刺す。大分が13年ぶり3回目の栄冠を勝ち取った。









写真提供：スポーツイベント社



東京オリンピックメダル獲得に向けた
公益財団法人日本ハンドボール協会新体制を激励する会
「政界産業界ハンドボール経験者の会」から





福井俊彦様
キャノングローバル戦略研究所理事長、界友会会長



蒲生晴明
（公財）日本ハンドボール協会副会長兼専務理事



川淵三郎様
（公財）日本サッカー協会最高顧問
日本トップリーグ機構会長

去る11月10日、東京・銀座において、政界産業界ハンドボール経験者の会（界友会）が、130名もの方々が出席される中開催されました。

司会は、例年同様に**福地和彦様**（三井物産（株））。福地様が簡単に界友会の歴史について紹介された後、**福井俊彦様**（キャノングローバル戦略研究所理事長、界友会会長）から挨拶がありました。世界情勢が大きく動いていく中で、東京オリンピックにおいて日本がどのような姿を世界に見せるのかを考え、若い人が先頭に立って世界に通じるイノベーションを生み出していくことの重要性をお話になった上で、ハンドボールのこれからを元気いっぱい、力強く応援していきましょう、との挨拶の後、乾杯の発声があり宴が始まりました。

しばらくの歓談の後、日本ハンドボール協会・**蒲生晴明**副会長兼専務理事から、協会の新体制を代表して挨拶がありました。「ハンドボール大好きです！」の一言から始まり、自身が1964年の東京オリンピックで様々な競技を観戦して心を打たれ、スポーツの素晴らしさを感じたというエピソードを披露しつつ、オリンピックに出たいという子供達のために道筋・未来を作るのは大人の責任であり、そのためにまずは2020年の東京オリンピックに向けて、命を懸けてハンドボールを強くしていくと決意表明されました。また、時折パワーポイントを用いて取り組みの説明をしながら、国内で国際試合をやることの重要性や、ヨーロッパに拠点を置いて代表チームの強化を行うべきであることを強く語られ、そのためには先立つものが必要であると、界友会に出席されている方々に支援をお願いする場面もありました。新体制となった日本ハンドボール協会を代表しての、熱い気持ちの込もった決意表明に、会場全体が大いに湧きました。

次に、**川淵三郎様**（（公財）日本サッカー協会最高顧問、日本トップリーグ機構会長）から、激励の言葉がありました。ご自身のハンドボール経験やトップリーグ機構について簡単にお話になった後、蒲生氏の激励に来たが、力強い挨拶を聞いたから大丈夫と感じたとおっしゃった上で、長い目で指導者や若者を強化していけるような体制作りの重要性について語ってくださいました。続けて登壇されたのは**麻生太郎様**（衆議院議員、副総理、財務大臣）。界友会について、大学時代に何をやっていたかでこのような横の繋がりができるのはよいことだとお話になってい



麻生太郎様
衆議院議員、副総理、財務大臣

ました。また、東京オリンピックに向けて、スポーツは地域に根ざしていくのが重要であり、そのためにメッカを作ることは活性化のもとにもなっていくとお話しになり、きちんと若い人を育てながら、地域の活性化に繋がっていくようハンドボールにも頑張ってほしいと激励してくださいました。その後、**馳浩様**（衆議院議員、ハンドボール振興議員連盟）から、ご自身が連盟の会長を務めるドッジボールとハンドボールで交流できるような体制を作っていきたい、オリンピックだけでなくこれからもハンドボールを応援していきたい、力を入れて議員連盟で頑張っていきたいとの、嬉しいお言葉をいただきました。

再び歓談を挟んだのち、**迫本淳一様**（松竹（株）代表取締役社長）からご挨拶がありました。ご自身のハンドボール経歴についてお話になった後、エンターテイメント業界でハンドボールを広めていくため、青山学院大学中等部でハンドボールをされている四代目中村歌之助様の襲名式でハンドボールの映像を流したことなどに触れられながら、お金を集めて人を集めてマーケットを生んでいくことが、これからのハンドボール界が発展していく上で重要だと語られました。続けて、**三田寛子様**（歌舞伎俳優八代目中村芝翫令夫人、四代目中村歌之助御母堂）が、ご令息である中村歌之助様がいかにハンドボールを好きであるかについてエピソードを交えながらお話になりました。襲名公演中である本人に成り代わり、と言い添えられた上で、歌舞伎も学業もハンドボールも頑張っていくので、これからも仲間に混ぜてやっていただきたいとおっしゃっていました。その後、界友会初の試みとして、抽選会が行われました。事前に参加者の方々に配られた番号を、迫本様と三田様がお引きになり、日本選手権およびプレーオフの観戦チケットと、襲名披露公演のチケットが当たるという趣向のもので、嬉しい催し物に会場が盛り上がりました。

次にお話しになったのは、新たに女子リーグに参戦する大阪ラビッツのゼネラルマネージャーである**富田進様**（大阪ハンドボール協会副会長）。まず、チームを作るにあたり、インターハイの女子決勝戦が背中を押してくれたというエピソードを語られました。試合を見て感動し、興奮して帰った自身の体験から、世間に紹介しなければならないと思い、大阪にチームを作ることを決意されたとのことでした。チームができてプレス発表をした時に、多くのメディアが集まって大きく取り上げてくれたことに勇気をもらい、その後のスポンサー集めも強気で進められたとのことで、ハンドボールの面白さは観てもらえれば絶対に伝わるから、自信を持って、ハンドボールの素晴らしさを大阪の皆様に伝えていくという力強い言葉をいただきました。

その後、ハンドボール振興議員連盟の方々から挨拶がありました。**齋藤健様**（衆議院議員、ハンドボール振興議員連盟事務局長）は、議員連盟のメンバーを紹介しつつ、蒲生氏の命がけの決意表明に対する思いを述べながら、自分達議員にできることがあるはずだから、私共を使ってくださいとおっしゃっていました。**木原稔様**（衆議院議員、財務副大臣）は、ご自身が熊本出身であることから、熊本地震に触れられながら、大変なこともあるけれど、2019年の熊本女子世界選手権では世界に元気な熊本を見せられるように復興を進めていくと語られていました。

最後に、**多田博**（界友会副会長、日本ハンドボール協会副会長兼日本ハンドボールリーグ機構会長）から、蒲生氏の決意を聞いて、界友会でできることをやっていく、これまでは口だけを出していたが、これからは必要な先立つものに対してできることをやっていきますので、よろしくお願いします、との中締めの挨拶があり、会は盛況のうちに終了しました。

リオオリンピックも終わり、いよいよ東京オリンピックが具体化していく中で、非常に多くの参加者の方々から激励の言葉をいただき、日本代表、そしてこれからのハンドボールへの期待が感じられる会となりました。2020年東京オリンピックでの、ハンドボール日本代表の飛躍を願ってやみません。　（機関誌編集委員・林　大輔）

日本リーグ新加盟チームの紹介

プレステージ・インターナショナル アランマーレ



チーム発足の経緯

地方都市において若い世代や女性が夢を持って働ける雇用環境を創造し、地域社会に貢献することを重要な基本戦略と位置づけております。地域の皆さまと歩みを共にする中で、「地域をもっと元気にする方法はないか、地域がひとつになれることはないか」という想いが芽生えるようになり、自治体、関係各所と協議の上、スタートしたのが実業団スポーツです。

競技種目に関しては、①地域の皆さまになじみが深い、②季節を問わず競技できる室内スポーツ（降雪の多い地域柄を考慮）、③当社 BPO 拠点で働く約８割が女性、という観点から選定いたしました。

富山 BPO タウンでの設立背景には、県内に女子ハンドボール実業団チームがなく、地元でスポーツを続けたい若い世代は県外に就職し戻って来ない、もしくは辞めてしまうという現状がありました。当社では、そのようなスポーツを続けたい若者をプレステージ・インターナショナルの従業員として雇用することで、若い世代が安心して地元に戻ってくることの出来る環境、そして女性がより一層活躍できる場を整備したいと考えております。

2016 年４月に設立した女子ハンドボールチームアランマーレは、富山県内で唯一の女子ハンドボール実業団チームとなります。（2016 年 12 月６日時点）

チームの特徴やスローガン

アランマーレは、スポーツで富山を元気に、また地域の皆さまに愛され、共に成長できるチームを目指しています。そして、子どもたちが憧れ、夢を与えるチームとなるべく活動してまいります。

アランマーレは、設立から約１年ばかり。これからつくりあげ、成長するチームです。

私たちの活動が人を勇気づけ、チームのエネルギーが地域の皆さまへ伝わるよう、練習、試合はもちろんのこと、地域貢献活動へも積極的に取り組んでまいります。

アランマーレは、身長 160 センチ前後の小柄な選手ばかり。高さで競うことは出来ませんが、攻守ともに機動力・スピードのあるスキルをベースに、タクティカルなプレーを展開するチームと言えます。体格では勝てなくとも、それ以外で勝機を見出せるチームを目指し日々練習を積み重ねています。①「一生懸命さ」は誰よりも、どのチームにも負けないこと、②「誰にでもできること」への取り組みを突き詰めること、この二つのスローガンを選手・スタッフ全員の共通意識のもと、活動をしています。

次年度新規参入の抱負

チャンピオンシップを目指していくプロセスを重視し、まずは我慢強く戦っていきたいと思います。鍛錬を積み上げ、個人の成長がチームの成長になるよう一人ひとりが自立した選手を目指します。

ハンドボールは１点ずつの積み重ねですが、得点・失点問わず１点の根拠を明確にしてチーム内で共有を図り、修正していくプロセスを積み重ねていくことが今シーズンの目標です。まずは、ひとつひとつに手を抜かず積み重ねていく姿勢を皆さまにプレーで表現したいと思っています。また、ミスを極限まで減らしていく個人の意識づくりと、チームの雰囲気づくりが必要になります。強豪チームとの戦いで、「できることに徹した粘り強い戦い」をお見せします。

ファンへのアピールポイント

アランマーレは、今から成長していくチームです。優れたプレーがファンを魅了するのは当然ですが、アランマーレは粘り強く戦い、得点へと繋いでいくパフォーマンスをお見せします。そして、選手・チームが成長していく姿に期待していただきたいと思います。１点を取る、１点を取られるゲーム中のプレーの変化、シーズンを通してのチームの変化を感じていただきたいです。また、子どもたちの憧れとなるようなプレーをお見せしていきます。

これからのハンドボールの未来を創っていく子ども達に夢を与え、目標となるようなチームとなり、「このチームがあってよかった」と地域の皆さま、そしてハンドボールに携わる方々にも思っていただけるようなチームを目指します。



チームスタッフ、選手紹介

監督　大森　聡
生年月日：1968年３月８日
指導歴：
【平成４年７月～平成28年３月まで高岡向陵高校女子ハンドボール部監督】
・全国高等学校選抜大会　優勝１回、準優勝１回
・全国高等学校総合体育大会　準優勝２回、３位２回
【平成24年４月より女子日本代表スタッフ】
【平成26年11月～平成27年10月まで女子日本代表コーチ】
・第15回女子アジア選手権２位
・リオデジャネイロオリンピック女子アジア地区予選２位

№１　石田 光
(Hikaru ISHIDA)
生年月日：1988年11月10日
身長：170㎝
ポジション：GK
出身地：富山県
出身校：大阪教育大学
成績：2007選抜大会優勝・インターハイ準優勝・国体優勝、2011インカレ優勝

№２　立野未央
(Mio TATENO)
生年月日：1986年５月28日
身長：165㎝
ポジション：RB、LB
出身地：富山県
出身校：武庫川女子大学
成績：2005選抜大会３位・インターハイ準優勝・国体３位、2006インカレ優勝、2007～2008インカレ３位・2008インカレ５位

№３　牛山悠衣
(Yui USHIYAMA)
生年月日：1993年６月10日
身長：152㎝
ポジション：CB、RB
出身地：長野県
出身校：国士舘大学
成績：2011インターハイ準優勝、優秀選手賞受賞

№４　小林瑶子
(Yoko KOBAYASHI)
生年月日：1994年１月４日
身長：151㎝
ポジション：LW、RW
出身地：静岡県
出身校：桐蔭横浜大学
成績：2015インカレベスト８

№５　兒玉菜夏
(Saika KODAMA)
生年月日：1993年６月11日
身長：155㎝
ポジション：RW
出身地：富山県
出身校：早稲田大学
成績：2011インターハイ準優勝

№６　唐木澤槙央
(Mao KARAKISAWA)
生年月日：1996年４月６日
身長：159㎝
ポジション：LB、RB
出身地：長野県
出身校：高岡向陵高校
成績：2014インターハイ３位

№７　島田奈緒
(Nao SHIMADA)
生年月日：1997年９月４日
身長：152㎝
ポジション：RB、LW
出身地：富山県
出身校：高岡向陵高校
成績：2014インターハイ３位

№８　水野元子
(Motoko MIZUNO)
生年月日：1997年３月23日
身長：159㎝
ポジション：LW
出身地：富山県
出身校：高岡向陵高校
成績：2014インターハイ３位

№９　横嶋 遥【キャプテン】
(Haruka YOKOSHIMA)
生年月日：1993年６月14日
身長：161㎝
ポジション：CB、PV
出身地：富山県
出身校：大阪体育大学
成績：2011インターハイ準優勝・2012インカレ準優勝・2013～2015インカレ優勝

№10　鎌倉絵美子【副キャプテン】
(Emiko KAMAKURA)
生年月日：1988年８月４日
身長：168㎝
ポジション：PV
出身地：埼玉県
出身校：日本体育大学
成績：2011インカレ優秀選手・2012インカレ３位

日本リーグ
新加盟チーム
の紹介

大阪ラヴィッツ

大阪ラヴィッツ GM　富田　進



チーム発足の経緯

大阪では 2000 年に大和銀行がチームを解散して以来、日本リーグに参戦するチームが無く、大阪で日本リーグの試合を見る機会もほとんどなくなりました。

大阪には高校・大学と強豪チームがたくさんあるにもかかわらず、その受け皿も無く大変寂しい思いをし、大阪ハンドボール協会としても何とか日本リーグに参戦できるチームが出来ないものかと切望していました。

私は 2015 年春より大阪協会のお世話をするようになりました。そして理事の皆さんと話をしているうちに女子チームをつくろうと動き出しました。しかし大阪でチームをつくる以上は中途半端なチームでは困ります。簡単に選手が集まる訳でもなく、簡単にスポンサーが見つかる訳でもなく二の足を踏んでいました。

ちょうど昨年、大阪でインターハイがありました。その女子決勝で高松商業高校と四天王寺高校がすばらしい試合をしてくれました。お互い一歩も譲らず内容も非常にハイレベルでテクニック・スピードとも最初から最後まで衰えることなく見ている観客を感動させてくれました。両校とも応援の為に初めてハンドボールを見に来たと言う方もたくさん居られましたが皆さん涙が出るほど感動され興奮して帰られました。この試合を見てドーンと背中を押されました。この感動、この興奮、そしてこんなすばらしいスポーツが世の中にあると言う事を伝えるのが協会の役目であると思ったのです。

大阪ハンドボール協会にはすばらしい人材がたくさんいます。チームをつくるにあたりそれぞれが得意分野で手分けして動き出すと、あっという間にチームの概要が出来上がりました。まずチームの監督を誰にするのかという話し合いがなされました。色々な方の名前が出ましたが、大阪にゆかりのある人と言う事で田中美音子さんが浮かび上がりました。彼女はソニーセミコンダクタ所属でナショナルチームの一員としてリオのオリンピックを目指し現役で活躍中でしたが、オリンピックが終わればいずれ大阪に帰りハンドボールに携わって行ければという気持ちがありました。当分は選手として現役を続けながらヘッドコーチとして実際の指導を行ってもらう事になりました。またその間、日本協会と大阪協会の理事で大阪教育大学のコーチをされていました中村博幸氏に監督をお願いすることになりました。



一番頭が痛いのが練習場所です。どのクラブチームも悩んでいると思いますが、大阪は人口の割には体育館が非常に少なく本当に大変です。長居公園にあります室内練習場を活動拠点としていますが、毎月抽選会に並びに行かねばなりません。練習は午前９時から１２時が基本です。そして午後仕事に行きます。

選手の受入れ先ですが、働きながらスポーツに一生懸命取組み、日本のトップを目指そうとする若者を応援しようと

言ってくださる企業様が大阪にはたくさんあります。現在5社に分かれて勤務していますが、いずれの企業様からも仕事と練習が両立できるように応援していただいています。

そして重要な資金ですが、選手の受入れ企業様をはじめ大阪には会社がたくさんあります。各企業の皆様はスポーツや文化に対しての理解が予想以上に高く、ハンドボールの面白さを理解していただければ十分に支援していただけます。野球やサッカーに比べれば小さな額でそれなりの宣伝効果も見込めるのです。

この様にしてチームが出来上がりました。2016年6月13日にはプレス発表を行いましたが、NHKを始め大阪中の新聞社や地元のケーブルテレビ局までもが長居の室内練習場につくった特設会場に来ていただき、チームの発足を各メディアが取上げて報道していただきました。かつてハンドボールがここまでマスコミに取上げられたことがあったでしょうか。喜びと共に責任の重大さを感じての船出となりました

チームのスローガン

大阪ラヴィッツのネーミングは［Osaka+Love+Rabbit］。

すなわち、大阪を愛し、大阪に愛され、地域に根ざす。そしてウサギのように愛らしく、縦横無尽にコートの中を飛び跳ねる。そしていずれは日本一に。

大阪は東京やその他の街にない濃いキャラクターの街です。頑張れば一生懸命応援をしていただけ、頼りなければ見捨てられる街です。この大阪で認められ応援していただけるチームを目指します。

そして大阪の活性化は「モノづくり」からと言うスローガンを掲げ「モノづくり」を応援し大阪に元気のタネを蒔きます。ユニフォームの袖には「LOVE OSAKA」と「がんばれ！モノづくり」を入れて頑張ります。

次年度新規参入の抱負

とにかく楽しみです。大阪で日本リーグが年に8回も開催されます。大阪にはハンドボールファンがたくさんいます。見捨てられないように責任重大です。勝つ事は大変です。いつ初勝利ができるのか、決して甘いものではありませんが「いつかは日本一」を合言葉に挑み続けます。

すでに2017年度の日程が決まっていて大阪では1500人～3000人が入る体育館を用意しています。イベントや応援も今までにない試みをしたいと考えています。大阪のチームが強くなれば必ずマスコミが注目してくれます。大阪からハンドボールのおもしろさをアピールできるよう、あのインターハイでの感動を届けられるように頑張ります。

ホームページ http://lovvits.jp　Twitter @OsakaLovvits

チームスタッフ、選手紹介

チーム代表
中江義雄（なかえ よしお）
生年月日：1939年9月19日
同志社大卒
関西学生ハンドボール連盟会長
元朝日新聞社取締役
元日刊スポーツ新聞社社長

GM（ゼネラルマネージャー）
富田　進（とみた すすむ）
生年月日：1948年8月24日
同志社大卒
大阪ハンドボール協会副会長

監督
中村博幸（なかむら ひろゆき）
生年月日：1951年3月16日
東京教育大卒
日本ハンドボール協会理事

ヘッドコーチ（選手兼任）
田中美音子（たなか みねこ）
生年月日：1975年1月14日
四天王寺高→大和銀行→Skovbakken→ソニーセミコンダクタ

総務担当
花野相三（はなの あいぞう）
生年月日：1950年7月7日
大阪体育大卒
日本ハンドボール協会評議員

マネージャー
山田千尋（やまだ ちひろ）
生年月日：1981年3月19日
国士舘大→ソニーセミコンダクタ九州
勤務先：関西オートメイション株式会社

#1　泉　幸歩（いずみ ゆきほ）
ポジション：ゴールキーパー
生年月日：1997年11月17日
身長：176cm　血液型：A型
出身地：大阪府
コートネーム：ユキ
球歴：四天王寺高
勤務先：トラスコ中山株式会社

#2　水田亜莉沙（みずた ありさ）
ポジション：右45
生年月日：1992年5月4日
身長：164cm　血液型：O型
出身地：熊本県
コートネーム：ハク
球歴：四天王寺高→筑波大
勤務先：トラスコ中山株式会社

#3　松澤杏奈（まつざわ あんな）
ポジション：両サイド
生年月日：1993年8月11日
身長：153cm　血液型：A型
出身地：東京都
コートネーム：クマ
球歴：佼成学園女子高→日本女子体育大
勤務先：トラスコ中山株式会社

#4　川崎美穂（かわさき みほ）
ポジション：ポスト
生年月日：1990年7月30日
身長：165cm　血液型：A型
出身地：熊本県
コートネーム：カイ
球歴：四天王寺高→ソニーセミコンダクタ
勤務先：株式会社テイクトップ

#5　田中美音子（たなか みねこ）
ポジション：センターバック
生年月日：1975年1月14日
身長：160cm　血液型：O型
出身地：大阪府
コートネーム：ミネコ
球歴:四天王寺高→大和銀行→Skovbakken→ソニーセミコンダクタ
勤務先：八光自動車工業株式会社

#6　中久保裕美（なかくぼ ゆみ）
ポジション：ポスト
生年月日：1987年6月6日
身長：162cm　血液型：B型
出身地：大阪府
コートネーム：ポス
球歴：四天王寺高→武庫川女子大→香川銀行
勤務先：トラスコ中山株式会社

#7　永塚　梓（ながつか あずさ）
ポジション：右サイド、右45
生年月日：1994年3月27日
身長：162cm　血液型：O型
出身地：栃木県
コートネーム：ラビ
球歴：栃木商業高→日本体育大
勤務先：トラスコ中山株式会社

#8　儀間晴香（ぎま はるか）
ポジション：センターバック
生年月日：1987年3月19日
身長：160cm　血液型：B型
出身地：沖縄県
コートネーム：シン
球歴：那覇西高→日本女子体育大→ソニーセミコンダクタ
勤務先：八光自動車工業株式会社

#9　古川麻衣子（ふるかわ まいこ）
ポジション：フローター
生年月日：1987年9月26日
身長：164cm　血液型：AB型
出身地：東京都
コートネーム：マル
球歴：白梅学園高→国士舘大→ソニーセミコンダクタ
勤務先：和光金属工業株式会社

#10　市川紗江（いちかわ さえ）
ポジション：左サイド
生年月日：1993年8月27日
身長：148cm　血液型：A型
出身地：神奈川県
コートネーム：ショウ
球歴：横浜創英高→日本女子体育大
勤務先：トラスコ中山株式会社

#11　石田由規乃（いしだ ゆきの）
ポジション：フローター
生年月日：1994年1月31日
身長：169cm　血液型：AB型
出身地：神奈川県
コートネーム：ユウ
球歴：旭高校→桐蔭横浜大学
勤務先：トラスコ中山株式会社

#12　齋藤佳織（さいとう かおり）
ポジション：ゴールキーパー
生年月日：1994年3月4日
身長：170cm　血液型：O型
出身地：埼玉県
コートネーム：リオ
球歴：川口東高校→桐蔭横浜大学
勤務先：トラスコ中山株式会社

「全員が全力を出せるスポーツ」―ハンドボール

特別寄稿

『送球ボーイズ』原作者 フウワイ氏



現在日本で唯一の連載されているハンドボール漫画『送球ボーイズ』の第3巻が2016年11月18日に発売された。『送球ボーイズ』はハンドボールの街・氷見を舞台として、高校1年生の志熊栄都（しぐまえいと）を中心に物語が展開する。

原作者のフウワイ氏に、ご自身とハンドボールとの関わり、ハンドボールの魅力、ハンドボールを漫画で描くことの難しさ、今後のハンドボールの展望などを寄稿していただいた。

『送球ボーイズ』原作者のフウワイと申します。貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。

私は福井県出身で、中学1年からハンドボールを始めました。その後高校3年間、大学4年間、大学卒業後も社会人のクラブチームに入り、気づけば人生のおよそ半分以上ハンドボールをしながら過ごしています。

現在は専業の漫画原作者ですが、2年前までは地元である福井県で会社員をしておりました。学生の頃から常々、ハンドボールの漫画がなかなか世に出てこないことに疑問を感じていて、ある時ふと「誰も描かないなら自分が描こう！」と思い立ち、働きながら2008年8月から『新都社（にいとしゃ）』という無料の漫画・小説サイトにて現在の原型となるハンドボール漫画『送球小僧』を趣味で描き始めました。

そのまま数年描き続けていたところ、2014年11月頃にマンガワン事業部（当時は裏サンデー編集部）の現在の編集担当より連載の打診があり、打ち合わせの末に作画担当をつけタイトルと内容も一新、2015年12月29日より連載が始まり現在に至ります。何の経験も実績もない新人のつもりでしたが、もう開始から1年が経ったという時の流れの速さには驚くばかりです。

＊　＊　＊　＊

県大会上位に入り北信越大会に進出する中で、中3の夏に氷見市の氷見西條中に敗れて全国大会出場を逃したという経験があり、ハンド王国氷見の存在が強く印象づけられたという事が漫画の舞台を氷見市にした発端になっているのですが、連載開始前に実際に取材に行って現地の方にお話を聞いたところ、我々が想像していたよりはるかに深くハンドボールが文化として根付いているのを実感しました。

60余年前に男子ハンドが国体で優勝して駅から当時の市役所までパレードを行った事、現在に至るまで市全体でハンドが盛んで、小さいころから皆が当たり前にハンドに触れて育つ事、当時のレジェンド的な選手が町で普通に暮らしている事…。関係者の皆様から語られる数々のエピソードがすでに漫画のような話ばかりで、「舞台にするならここしかない」と思ったのを今でも覚えています。

また、私は富山大学の出身なのですが、この10年間氷見市にて開催されている全国中学校ハンドボール選手権の運営スタッフとして参加していた事にも不思議な巡りあわせを感じます。当時は自分が10年後に漫画家として会場に呼んで頂ける立場になるとは想像すらしていませんでしたが…。

富山・氷見に運命的なものを感じ、その魅力を発信する事も作品作りのテーマになっていますが、今後の『送球ボーイズ』の展開としては、地域色をもっと出していきたいという思いがあります。氷見市ももちろんもっと描きたいですし、全国には同じように町ぐるみでハンドボールの強化に力を入れている地域が数多く存在します。ゆくゆくはそうした他県のチームと戦う姿も描いていきたいと考えております。

＊　＊　＊　＊

さて、小中学生がスポーツ少年団・運動部への入部を考える上で、漫画は非常に強い影響力を持つ媒体であると私は考えます。私が小学生の頃、サッカー部と同じぐらいバスケ部が人気でしたが、ほぼ全員が『スラムダンク』を読んでバスケを始めており、高校の

テニス部の友人も『テニスの王子様』を愛読していました。ヨーロッパやブラジルの一流サッカー選手は大抵『キャプテン翼』のファンという話もよく耳にします。私がアマチュア時代に前身となる漫画を描いていた時ですら、「この漫画を読んでハンドボールを始めました」というコメントが何件も寄せられていました。

野球、サッカー、バスケ、バレー、テニス、卓球などメジャーなスポーツ漫画は大抵どの漫画雑誌にも１つ２つは掲載されていますし、近年はマイナースポーツを題材にした漫画も増えてきました。しかしハンドボールの漫画で長期連載の実績が過去にあったかと言われれば、ないと言わざるを得ません。ざっと調べてみたところ、最長で単行本３巻、我々の『送球ボーイズ』がタイ記録というところまで来てしまいました。１ゴールが１点である事や時間制限がある事、７人全員がボールに絡む事などが漫画として描くのが難しい要素ですが、マイナースポーツの漫画でも大ヒットを飛ばす作品も世に多数あるため、チャンスはまだ残されているものと考えます。

競合する漫画が少ないという強みを生かして自由に描かせて頂いておりますが、競技のありのままを描いているだけでは競技者御用達になってしまう事も同時に懸念しています。

ハンドボールという競技は名前自体は広く認知されているにも関わらず、細かいルールはおろか国内や世界で活躍する選手の名前、強い国がどこか、何人制の競技かすら知られていない事が多いのが現状です。その中で、複雑な戦術や熟練の選手の渋い技などを紹介してもなかなか理解が難しい部分があるので、一般の読者、特に今まさに何かに打ち込んでいる人や学生時代に部活に打ち込んだ経験のある人、ハンドボールの経験や知識がない人にも楽しんでもらえる漫画にすることを心掛けています。経験者の満足と未経験者の満足を同時に満たすというバランス感覚が最も難しい、と一年間の連載で強く感じております。

＊　＊　＊　＊

10年以上ハンドボール部に所属した中で感じ、読者の皆様に伝えたいハンドボールの魅力は「全員が全力を出せるスポーツ」というところです。オフェンスならスーパーエースが一人で点を取ることもできますが、ディフェンスは一人が手を抜いた時点で崩壊し、その得点が奪い返されるのでコートに立つ限り誰一人として楽ができない競技だと思います。

よくハンドボールは「手でやるサッカー」「バスケに近い」とも言われるのですが、攻め方・守り方はラグビーに近いのではないか、という感覚もあります。一人が間を攻め、激しい接触を受けながらも隣の仲間にボールを託し、体で道を作りゴールに繋げる。ボールがこぼれれば弾丸のように飛び出してコートを独走する場面もある。

他のスポーツを見てハンドとの共通点や相違点に考えを巡らせるようになったのは漫画を描き始めてからの事だなと最近気づきました。全力で走り、全力で跳び、全力で投げ、全力でぶつかる。お互いがとにかく全てをぶつけ合う競技なので、生の試合のスピード感や迫力は素晴らしく、せめて映像ででも知ってもらいたいのですが、放送される機会もなかなかないのがもどかしいです。

漫画が専業となりデスクワークが増え、練習に満足に参加できなくなった今は、久々に何時間かハンドをやるとその運動量の多さと、翌日翌々日の全身の筋肉痛に驚かされます。本当に全身の筋肉を総動員するスポーツなので、そこから生み出される力強さや美しさをどこまで絵で表現できるかを考え、日々作画・編集と議論しながら制作を進めています。

＊　＊　＊　＊

ハンドボールの今後の展望についてですが、国内での競技の隆盛はひとえに2020年東京オリンピックの結果にかかっていると私は考えます。ワールドカップで世界３位の南アフリカを破り一躍人気スポーツに躍り出たラグビーのように、きっかけさえあればハンドボールの試合そのものは人気が出るのに十分すぎる魅力を備えているはずです。

かつて中東の笛問題で北京オリンピックの予選やり直しが決定された時が私が生きてきた中で最も多くハンドボールの名が世の中で話題に上がった時期だったように思います。あの時韓国と再戦してもし勝っていれば、今とは状況が変わっていたかもしれません。

2016年リオオリンピックは出場が叶いませんでしたが、東京は自国開催枠として出場が可能です。名将ダグル・シグルドソン監督を招聘した事は東京に懸ける決意の表れだと思いますし、作戦名やポジション名など国内で地域差・年代差のある指導方針を数年内に国際基準に統一する動きもあると伺っています。絶好の機会を今度こそものにし、国内にハンドボールの魅力を存分に知らしめて欲しいというのがプレーヤーとして、漫画家として、ハンドボールに携わる人間としての私の願いです。

現在、『送球ボーイズ』は2017年３月に単行本最新４巻の発売を予定している他、スポーツメーカー様、雑誌社様、協会の皆様と提携し準備を進めている企画が数多くございます。

来たるべきハンドボール人気爆発の日に向けて、漫画にしかできない方法で少しでもお力添えできるよう一層頑張って参ります。何卒、宜しくお願い申し上げます。

INTERVIEW

松岡宏高教授（早稲田大学）に聞く

2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えた普及活動

少子高齢化の流れの中で、中央競技団体としての普及活動の視点とは



松岡教授の専門はスポーツマネジメント、スポーツマーケティング。特に、スポーツ消費者（実施者、ファン・観戦者）の心理や行動の解明を研究テーマとし、スポーツをする人、見る人が増える仕組みづくりを研究されている。現在、早稲田大学スポーツ科学学術院教授。日本スポーツマネジメント学会運営委員、日本バレーボールリーグ（Ｖリーグ）機構理事なども務められる。著書に、『スポーツマーケティング』（共著：大修館書店)、『図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント』(共著：大修館書店)、『スポーツ産業論』（共著：杏林書院）など。

今般、スポーツ中央競技団体が取り組む普及活動全般についてご意見等を伺った。

最初に、よく言われる普及活動と強化のつながりについてお伺いします

普及活動と強化は正しくリンクしており、ニワトリと卵の例えのようにどちらが先だということはないでしょう。よくあるのは「日本代表」が好成績を残すとTVや新聞などへの露出度も高まり、一時的であれ世間の興味も上り、小学生等ジュニア層の競技人口も増えてくるでしょう。但し、サッカー女子の「なでしこ」がワールドカップに優勝しましたが、一時期はリーグの観客数も増えて盛り上がりを見せましたが、昨今は以前の状況に戻っている感があります。強化をして好成績を上げれば、競技団体の意図する普及活動など全ての事柄が上手く進む訳ではないことも現実として理解しておく必要があります。大事なのは、「日本代表」の強化策と併せて、きちんと普及活動の仕組みを作っておくことでしょう。サッカーも、現在はトップスポーツとして人気もありますが、以前から各地域にトレーニングセンターを作るなど地道な普及活動を展開していました。更には、小学生等のジュニア層が活動しやすい用具の開発や新たにゲームのルール改正等などを開発することで、体格・体力に劣る小学生等にも直ぐに馴染める競技とする努力も大切です。これには、大変な時間と労力・費用も掛かる事ではありますが、普段の地道な普及活動が何より重要となり、改めて言えるのは普及活動では特効薬は存在しない事です。

普及活動を実践するのに当たっての視点とは

具体的な推進に当たっては、中央競技団体（以下、日本協会）と地域・都道府県の競技団体が緊密に連携をして進めることが肝要です。取り分け、日本協会の方針や方向性、戦略が各都道府県協会や関連の指導者・コーチに上手く繋がっていかなくてはなりませんし、更には、これらの情報を都道府県協会内で十分に共有・連携ができる仕組みの整備も求められます。

次に、普及活動を推進するのにあたり、ジュニア世代が各競技スポーツを始めたきっかけについて触れてみたいと思い

ます。2011 年に調査した結果では、「自身の意欲」「学校にクラブがあったこと」「当該スポーツを体験する機会があったこと」「親の勧め・親の競技経験」「高レベルの大会出場の可能性」などがありました。又、その選んだ競技スポーツの継続に影響を与えた要因としては、「自身の意欲」「親の経済的・精神的・行動的な支援」「指導者の支援」「出場機会」「高レベルの大会出場の可能性」が主なきっかけとなっていました。

これらから見えるのは、競技スポーツに接する機会をより多く作る事や、学校生活では各競技の部活動の存在が大きく関わってきています。今の日本社会の構造では、欧州等ではスポーツの活動拠点として当たり前の所謂「地域スポーツクラブ」の存在がまだまだ未成熟であり、学校を中心とした競技の部活動が普及活動に大きく関わっていることを再認識しなくてはなりません。

では、普及活動を前進させる小中学校との連携は

数年前にハンドボールも小学校学習指導要領に追加されたそうですが、小中学校での授業体験を増やす事がジュニア層への競技の体験場面の提供としてとても大切な活動であり、日本協会や都道府県の競技団体は、学校側に対してより積極的にアプローチすべきでしょう。具体的には授業を受け持つ教員への競技内容の説明会や指導ポイントの解説、必要な用具類の提供など、教員が授業で教えてみようかなと思わせることも重要ではないかと考えます。教員側から授業などを積極的に展開することを期待するのは困難であり、競技団体側から提案・提起していくことが何よりも大事ですし、場合によっては専任コーチの授業への派遣などを提起することも対策の一つと考えられます。学校の教員は本来の授業などの対価として俸給を得ており、競技の指導や部活動に自身の貴重な時間を割くには、より広範な外部からのサポートや情報の提供が何より重要です。学校活動の優位性である時間と場所、そして安全管理の面からも、各競技の普及活動を進める上でも、学校と上手く連携できるかが、今後の普及活動を大きく左右する課題であることは間違いありません。

学校以外の普及活動場所とは

他方、学校活動とは異なる「クラブ」の育成にも注力することが必要です。特に小学生が競技を開始・継続している実態を見れば、小学校の活動ではなく任意のクラブチームでの競技開始が多くあります。その後に障害となるのが、中学進学時に同じ競技の部活動が無く継続した活動の受け皿が無いことの現実を回避していかなくてはなりません。そのためにも、競技に特化したコーチや指導者の育成を図り、地域でのクラブ設立や運営の補助等に関わる人材の提供が大切となり、日本協会として最重要な課題となっています。又、選手の強化策に関わる費用も十分に確保できず金銭面で厳しい活動を強いられる中では、指導者育成に必要な人的及び財政的な資源も限られ、相変わらず「熱心な個人」に頼る現実を改めていかなくてはならないでしょう。地域では、日本協会の金銭的な支援を得ずとも、地域と学校、行政が連携して、地域スポーツクラブの新たな活動にも触れる機会があり、このような各地域での特異な活動が増えていくことを期待するところです。

最後になりますが…

前述の中に、競技を始めたきっかけについて触れていますが、その中に、「高レベルの大会出場の可能性」などは、マイナーな競技スポーツほど子供たちを競技へ誘引するのに大きな要因となっていました。しかしながら、高レベルに至る可能性がないことに気づいた選手が、途中で止めていっているのも事実です。このことは、競技力の向上とは違った視点での競技の継続、言い換えれば、社会人になっても同じ競技を継続できる環境の整備など、生涯スポーツに繋がる受け皿作りも大変重要です。シニア世代の選手が地域で増えていけば、親の試合に子どもたちが付いていくなど競技に接する機会の多様化にもなります。又、購買力のあるシニア層の選手が増えれば競技関連用具の販売拡大や、選手生活引退後のコーチ・指導者等への切り替えも、今までの経験を生かして容易にできるでしょう。更には、日本リーグ他の試合観客数の増加などにも繋がり、競技団体にとって有益な事柄が多々あります。小学生を始めとしたジュニア層への普及活動とシニア層への競技継続策が上手く循環することにより、尚一層競技人口も増してくるでしょう。繰り返しになりますが、小学生を始めとしたジュニア層に対してはハンドボールに触れる機会を増やしていくことが重要ですし、日本協会は都道府県協会を巻き込んでの地域での地道な継続した普及活動が大切となります。又、学校とも上手く連携を図り、特に小学校では授業機会の支援を図る取組みも有益な普及の活動の一つです。

以上、申し上げた事の具体的な推進には、改めて日本協会と都道府県協会が情報を共有し相互の連携で普及活動を進めることが大切であり、これからの具体的に推進する普及活動が、2020 年以降の各競技団体の隆盛にも繋がることでしょう。普及と強化は競技団体にとって永遠のテーマではありますが、先にも触れた通り特効薬はなく、地域や学校での地道な普及活動の継続が、競技力となって顕在化するであろうと捉えています。

最後に、今後の普及活動が更に大きく進展し、ハンドボール競技が他の競技と比べても、一目置かれる存在となることを祈念しています。

1st Asian Women's Club League Championship 2016 in KAZ

太田智子／島尻真理子

女子のアジアクラブチームのNo.1を決める第1回の大会がカザフスタンで行われました。男子は19回の開催になりますが、女子の第1回といえども、各国と各クラブのプライドがぶつかる激しく荒々しい戦いが繰り広げられました。イラン、ウズベキスタン、カタール、カザフスタンの4カ国、6クラブでのリーグ戦を行いNo.1を決める戦いを行いました。現時点では、日本、韓国、中国などの国々の参加はありません。日本に至っては、日本リーグ真っ最中である事が参加できない理由の一つと考えられます。

レフェリー団は、バーレーン、オマーンの男子ペア、韓国、日本の女子ペアの計4ペアがノミネートされました。カザフスタンのクズロルダという地域で行われましたが、1日1便しか出ていないクズロルダ行きの飛行機にて現地へ出発する為、首都アスタナで一泊し、山々に囲まれた開催地クズロルダへ向かう事となりました。到着した空港で手厚い歓迎をいただきましたが、現地気温が-10℃を示すほどの寒さで、震えを抑えるのに必死でした。到着した次の日からシャトルランテスト、ミーティング等を行い、大会への気持ちや意識を高めていきました。

今大会で重要視されていた事は、一つは第1回の大会である事。大会を迎えるまでに多くの人々が関わり、想像には及ばない苦労があった事などを踏まえ、必ず成功に終わらなければならない。そのためにレフェリーとして何が出来るか。コート上でベストを尽くすのはもちろん、それまでの過程が一番大切だと私は常に考えます。コート上では多くの人の目に付き、見られていることから、それなりの事は当然誰しもすると思います。それまでの過程とはその試合のコートに立つまでにレフェリーとして何をしてきたか、何をすべきかだと思います。コート上に立って一生をかけているであろう選手の一つ一つのプレイを判定するための準備は必須です。体力トレーニングを行いルールについて熟知する事はもちろん、オリンピックレフェリーの試合を見たり、それについて疑問があれば直接聞く、鏡の前で自分のジェスチャーの確認、起りうる状況での表現の仕方の練習、イメージトレーニングや身体の休養、メンテナンスなどなど無数にあり、時間はいくらあっても足りないくらいです。IHFの大会であろうが県内での試合であろうが同じです。現地に入ってからの過ごし方も同様です。レフェリーとしてその場にいる以上は、レフェリーとして出来る事をコートに立つまでに最大限行うことが最も重要な事だと思っています。コートの上では、自分がやってきたことしか出来ないものだと思います。上記にあげたような事は普段から取り組んでいることではありますが、今大会は、一つは寒さが大きく関わると思っていましたので、寒さに慣れるため、やはり早朝のランニングを欠かさず行いました。もう一つは、クラブ同士の戦いとなると、毎日練習している事が十分に出し切れるような事が重要だと考えましたので、事前の国々のクラブのリサーチ等を行いました。



二つ目はルールに関してです。今大会のミーティング等では際立って注目すべき事項はありませんでしたが（再確認程度）、新ルールとされていた事項について、新たに確認することができ、大変実りあるものになりました。今大会ノミネートされていたレフェリーはコンチネンタルを取ったばかりで初めてのアジアの大会となったレフェリー、コンチネンタルでアジアの大会は数回担当しているレフェリー、IHFレフェリーになったばかりのレフェリー、IHFで世界大会を経験しているレフェリーと様々でした。運用自体は任されていますが、それぞれの試合で違う判定が行われる事だけは避けなければなりません。特に変更された部分を確認しそんな指導の下、試合が開始しました。私たちが意識すべきことは、7月に参加した世界ユース選手権での経験をアジアで生かすことでした。世界ユース選手権の際に、どんな時もどんな大会でも同じ笛、行動をするように指導を受けました。世界大会とアジア大会でその都度そのレベルに合わせてしまう事は望ましくありません。アジア



のレベルアップのためにも、自分たちの為にもそうする事が望ましいと思い取り組んでいます。と言っても、私たちだけが突出すること（笛が先行すること）は誰も望んでいませんので、ゲームの流れにそむかないよう心掛けました。そんな中、前半終了後に基準が少し高いという指導を受けました。私たちの中では警告のプレイと2minのプレイをはっきり分けている考えですが、当然、そういった意識の中でも今大会の全体を見て指導する審判長からの指導である以上その指導に従い、後半からは前半の流れにそむかない程度に基準を下げました。そのようなやり取りの中で“なるほどな”と学ぶ事は多いです。大会が終了し、表彰式が終わった後に、イランチームの選手から“We can play well that you are the referee. We made a good game.”カタールの選手たちからは“You are good referee!!”“You are cool!!”と声を掛けられました。イランとカタールは今大会の最下位と下位から２番目でした。上位のチームが嬉しいのはもちろんですが、下位のチームが“良かった、良い試合だった、ありがとう”と言ってくれる事は、レフェリー冥利に尽きるものでした。

また、私事ではありましたが、現地カザフスタンで誕生日を向かえました。選手役員関係なく、試合前にセレモニーを行うようで、多くの方に祝っていただきました。ミーティングの時や夜も盛大にお祝いをしていただき、大変幸せな誕生日を迎える事ができした。IHFが発信するSNSのページにも載せていただいた写真に一緒に写っているのはIHFのメンバーでもありアジア連盟の副会長のMr.Bader、女性の方はアジア連盟の副会長でもありカザフスタン協会の会長Ms.Gulnarです。大変光栄でした。



今大会は第１回ということもあり、大変な部分は多々あったと思いますが、アジア連盟をはじめ、カザフスタン協会、日本協会のご協力のもと、無事大会が大成功に終わりましたことを、ここに報告させて頂きます。最後になりましたが、ご支援、ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

from IHF NEWS

第１回アジア女子クラブリーグ選手権

アジアハンドボールの歴史の中で初めて、アジア女子クラブリーグ選手権大会が開催されました。カザフスタン、ウズベキスタン、イラン、カタールから参加の６チームは、カザフスタン共和国の都市クズロルダに2016年10月26日から11月１日に集まりました。

第１回の記念すべき大会での優勝は、カイザー（カザフスタン）が同国のアルマトイ等を撃破し栄光に輝きました。

大会結果
1. カイザー（KAZ）
2. アルマトイ（KAZ）
3. イル（KAZ）
4. AGMK（UZB）
5. サナンダージュ（IRI）
6. カタール（QAT）

第19回アジア男子クラブリーグ選手権

2016年10月29日から11月５日に、ヨルダン、サウジアラビア、カタール、イラン、アラブ首長国連邦、バーレーン、オマーンから８チームのクラブチームがヨルダンの首都アンマンに集まりました。

大会は、優勝したアルヌール（アラブ首長国連邦）がアル・ジャイシュ（カタール）を破り優勝の栄誉を勝ち取りました。

大会結果
1. アルヌール（KSA）
2. アル・ジャイシュ（QAT）
3. Lekwhiya（QAT）
4. Gachオイル＆ガス（IRI）
5. アルジャジーラ（UAE）
6. アル・アハリ（JOR）
7. アル・アハリ（BRN）
8. アハリ Sedab（OMA）

～喜びが共有できる場を～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

メダルラッシュに沸いたオリンピックイヤーが終わり、東京2020に向けた強化に各競技団体はこれまでに増してパワーを結集して取り組むだろう。長らくオリンピックに縁のないハンドボール界だが、早急に強化プランを描き、実行に移していきたい。

それはさておき、新年を挟んで多くの競技団体が年間表彰式を開き、国内外で活躍したアスリートや功労者らをたたえている。受賞者にとっては、この上ない励ましになるし、次世代を目指す人たちにとっても、大きな勇気と活力をもらう場ではないかと思う。

私は以前から彼らを称賛することで、さらに刺激を与えることにもつながるのではないかと考えてきた。ある団体には、こうした考えを何度か持ちかけてきた。しかし「いいことだ」と言うだけで、まったく前進しない。うがった見方をすれば、これまでのやり方を変える気など全くないように受け止めている。

多くの人たちの前での晴れ舞台と、会議室などでささやかにたたえるのと、受賞者はどちらを喜ぶだろうか。正解は言わずもがなだろう。

「小中学生を酒の宴に出席させることは出来ない」―。こう言った人さえいたが「同席させる」なんて全く思ってもみなかっただけに、二の句がつけなかった。言い換えれば、自分たちがやってきたことにクレームをつけられた気になるのか、あるいは固執しているようにも思えて、あきれ返るしかなかった。

日本リーグでは決勝後にMVPなどを表彰する場を設けているが、協会を挙げて競技者、功労者をたたえるイベントはできないものだろうか。

トップだけでなく、小学生から一般まで各カテゴリーで優秀選手を選出、年間表彰式を設定して、その中からMVP、ベストセブンなどを発表するなどの方法もあろう。中央と地方と表彰式を分けて、児童・生徒は該当の地域で行えばいい。父母らにも出席を呼びかけ、あるいはファンの参加があってもいいだろう。児童らは感激するはずだし、父母も喜ぶだろう。普及・発展、さらには強化にもつながってくるのではないか。多くの人たちに見守られての晴れ舞台。何事にも代えられない、忘れられないひとときが演出できる。

強化をいくら叫ぼうと、おのずと限界はある。正面突破だけでなく、いろんな方向からのサポートも必要だろうと思う。感動を与え、やる気を起こさせ、継続させてこそ、競技人口の増加、レベルアップ、関心度の高まりなどにも効果が出てくる。発想の転換を図ることで、新たな発見もあるはずだ。バレーボールや卓球の新リーグ構想も新しい道を模索してのものだ。若い人の新鮮で柔軟な発想も取り込み、新しい姿を模索することは、決して無駄ではないだろう。

みなさんのお考えはいかがなものだろうか―。

GEL-BLAST® 7

多方向への強い切返し動作をサポート

軽量性・クッション性・安定性。さらなる優れた機能バランスを備え、
クイックな動作に対応する、スタビリティトップモデル。



GEL-BLAST® 7 NEW
THH543 本体価格 **¥12,800**+税
2301 ／レッド×ホワイト　4301 ／ブルージュエル×ホワイト
サイズ：23.0~30.0cm
7月中旬発売予定

WANT IT MORE asics

日本ハンドボール協会・日本ハンドボール学会共催

第３回コーチングセミナー開催報告

日本ハンドボール学会理事／コーチングセミナー担当　田村 修治

平成 28 年度 12 月 3 日（土）、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、日本ハンドボール協会・日本ハンドボール学会共催第 3 回コーチングセミナーを開催しました。テーマは、「ハンドボールの状況判断トレーニング」でした。講師は、高校女子チームで 14 回の全国優勝、大学女子チームで 5 回の全国優勝の実績を持つ楠本繁生先生（大阪体育大学女子ハンドボール部監督、U-24 女子日本代表監督）、デモンストレーターは、東海大学男子ハンドボール部の皆さんでした。セミナーには 130 名の参加があり、終始活気のある雰囲気で様々な状況判断を用いたトレーニングが展開され、的確な状況判断に基づくプレーに必要なスキルや原則について深く学ぶことができました。また今回のセミナーは、日本ハンドボール協会公認スポーツ指導者（コーチ、指導員など）の資格更新のための義務研修の対象としました。

ここからは、参加者の横山克人さん（東海大学・非常勤講師）が本セミナーの概要を報告します。

第 3 回コーチングセミナー開催にあたり、日本ハンドボール協会指導委員会委員長・藤本元先生から開会の挨拶がありました。その後、講師・楠本繁生先生のご紹介があり、講義と実技が行われました。その内容は以下の通りです。

1.「状況判断トレーニングの考え方」（講義）

本セミナーは「ハンドボールの状況判断トレーニング」をテーマに、楠本先生が考える“挟むハンドボール”と“数的優位な状況”について講義されました。

“挟むハンドボール”では、ポストプレーヤーとバックプレーヤーで DF を挟むことをベースに考え、リオ五輪の映像を用いて、ポストプレーヤーとの 2：2 の重要性が説明されました。数的同数の状況を如何に崩すかは、ポストプレーヤーとの関係が不可欠であり、その局面に 3 人目、4 人目が絡むことで数的優位な状況を作り出すことが大切であると説明されました。

“数的優位な状況”については、①確実に攻め、シュートまで行くことができる。②よりシュート確率が高い位置への選択肢が選べているか。が確実に解決するためのポイントであると説明されました。選手には、「的確な判断とアイディア（選択肢）を持つこと」が重要であり、指導者には、「選手に理解させ、動きをイメージさせた上で選手が自発的に動くように仕向けること」が必要であると話をされました。

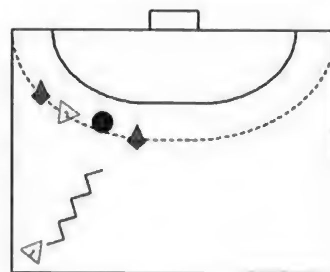
2.「状況判断トレーニングの実際」（実技）

1）数的優位な状況における状況判断

数的優位な状況におけるトレーニングは、常にポストプレーヤーが介在する状況下で、OF 側の数的優位な状況が設定されていました。トレーニングは、コート片側の縦半面を使った 2:1・3:2・4：3（それぞれ左右の局面）が行われ、トレーニングが進むごとに範囲を広げ、人数を増やした状況でのトレーニングが行われました。トレーニングのポイントとして、OF は、①的確な判断、②アイディア（選択肢）を持つ、③より良い状況を作ること、DF は、①駆け引きをする、②チャレンジをすること、を意識させながら、終始トレーニングが行われました。

（1）2：1 状況判断トレーニング

指定された範囲の中でバックプレーヤーとポストプレーヤー 2 人の OF に対し、1 人の DF を想定した 2:1 が行われました（図1）。バックプレーヤーが状況を解決するための選択肢は、①シュート、②ポストパス、の 2 つの選択肢から判断することが求められていました。一方、ポストプレーヤーは DF に対して、①ブロック、②スライド（DF から離れる）のプレーを選択し、状況を解決することが求められていました。プレーヤーの解決能力やトレーニングの状況に応じて、範囲を狭くし DF が守りやすい状況下で OF の状況判断を難しくする工夫がされていました。楠本先生は、「スピードがある中で数的優位な状況を確実に決めきれることが大切。」と説明をされ、デモンストレーターにスピードを意識させていました。


図１　2：1 の状況

（2）3：2 状況判断トレーニング

先の 2：1 の状況に、パサー（図中の P）と OF はサイドプレーヤーを加え、DF は 1 枚目と 2 枚目を想定した 3:2 が行われました（図 2）。バックプレーヤーは、①ポストプレーヤーの上からシュートを基本とし、2 枚目と 1 枚目の反応を確認しながら、②ポストパス、③サイドプレーヤーへの飛ばしパス、の 3 つの選択肢から判断することが求められていました。バックプレーヤーのプレーに対し、ポストプレーヤーは、①ブロック、②スライド、③スライド後に 2 枚目のアウトブロックのプレーを選択し、状況に応じて解決することが求められていました。プレーの発展として、ポストプレーヤーのアウトブロックを活用した攻撃、サイドシュートからポストパス、バックプレーヤーとサイドプレーヤーのクロスなど、バリエーションに富んだ発展的な攻撃を段階的に指導されていました。楠本先生は、その状況に応じた適切な判断を丁寧に指導されながら、「ここで大事なことは、選択肢を 2 つから 3 つに増やすことと、選択肢が増えても第一優先はシュートであること」と説明をされていました。

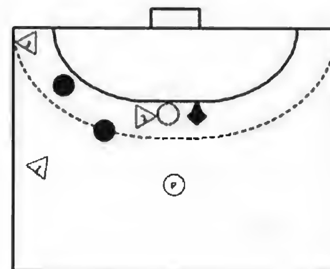


図２　3：2 の状況

（3）4：3 状況判断トレーニング

先の 3：2 の状況にセンタープレーヤーを加え、DF は 1 枚目、2 枚目、3 枚目を想定した 4：3 が行われました（図 3）。センタープレーヤーには、①シュート、②ポストパス、③バックプレー

ヤーへのパス、④サイドプレーヤーへの飛ばしパスの選択肢を持たせ、より良い状況での解決方法を判断させていました。味方のプレーやDFの反応によって、ポストプレーヤーには、①ブロック、②スライドのプレーを判断させ、サイド・バックプレーヤーには①パラレル、②クロスのプレーを求めていました。楠本先生は、「選択肢が増えることにより、判断は難しくなるが、DFを左右に動かすことや、より引き付けるプレーが重要である。」とデモンストレーターに指導をされていました。

図３　４：３の状況

2）数的同数な状況における状況判断

ポストプレーヤーを活用した連続攻撃では、数的同数の状況を如何に崩すかをポイントとして、攻撃プレーヤーの横と縦の関係を活用したトレーニングが行われました。バックプレーヤー間の横の関係からポストプレーヤーとの縦の関係に３人目、４人目が絡むことで、瞬間的に数的優位な状況を作り出すことが連続攻撃の狙い目でした。

（1）２：３連続攻撃の状況判断トレーニング

２：３連続攻撃のトレーニングは、バックプレーヤー間でクロスプレーをした後、ポストに入り瞬間的なポストプレーヤーとバックプレーヤーの２：２を攻めることがポイントでした。より良い状況を作り出すために、最初の２：２で終わるのではなく、２：２に３人目、４人目のプレーヤーが参加し、新たな２：２を連続して攻めていく設定で行われました。３人目、４人目のプレーヤーは、DFの状況と味方の動きに合わせて、①パラレル、②クロス、③ポストパス、④次の参加プレーヤーにパス、の４つの選択肢から判断し、ポストプレーヤーが空いた瞬間には確実にポストパスを選択することが求められていました。局面は常に２：２の状況でありながら、選択肢は４つあり、次々に状況が移り変わる中での的確な状況判断が求められるトレーニングが行われていました。

（2）３：４連続攻撃の状況判断トレーニング

３：４連続攻撃のトレーニングでは、予め介在しているポストプレーヤーと２：２をした後、ダブルポストへ移行し、２人目のプレーヤーと新たな２：２を攻めることがポイントでした。１人目のバックプレーヤーは、予め介在しているポストプレーヤーとの２：２を攻めた後のプレーが重要であり、新たなポストプレーヤーとして再びプレーに参加することで数的優位な状況を作り出すことが求められていました。一方、２人目のバックプレーヤーは、２人のポストプレーヤーと２：２を攻めることが重要であり、４人のDFに対し３人で２箇所の２：２を攻めることが攻撃の狙い目でした。２人目のバックプレーヤーの選択肢としては、①パラレル、②クロス、③ポストA（新たなポストプレーヤー）と２：２、④ポストB（予め介在しているポストプレーヤー）と２：２、⑤３人目のバックプレーヤーにパス、の５つの選択肢があり、極めて難しい状況判断が求められていました。楠本先生は、「選択肢が増えても、やはり第一優先はシュートであること。」をデモンストレーターに指導をされていました。また、「動きを止めないこと。」を強調され、「常に連続した攻撃を繰り返し行うこと。」を絶えず伝えながら、時には見本を見せて指導をされていました。

図４　２：３連続攻撃

図５　３：４連続攻撃

最後に、日本ハンドボール学会理事長・會田宏先生から閉会の挨拶がありました。

今回のセミナーで紹介された内容は、選手がどのように状況を判断し、どのようにプレーを選択するのか、またどのように動作を行うのか、といったポイントを段階的に示した内容でした。熱意あふれる講習をしていただいた楠本先生、デモンストレーターの東海大学男子ハンドボール部の皆様に感謝いたします。

写真１　セミナー参加者と講義の様子

写真２　実技指導の様子

2016年度トップコーチセミナー 開催案内

公益財団法人日本ハンドボール協会 指導委員長　藤本 元

2016年度トップコーチセミナーを下記の要領で開催いたします。ふるってご参加ください。

ねらい　国内及び国外の優秀な指導者をお招きして、日本の将来を担うユース・ジュニア期の選手を指導する指導者に有益な情報とアイデアを提供する。

テーマ　『現代のハンドボールに必要な競技力の獲得を目指したユース・ジュニア期におけるファンダメンタルトレーニング』

講師（敬称略）
アレキサンドル・アクシンテ
EHF講師、元U-19ルーマニア男子代表チームコーチ、Vasile, Alecsandri" University of Bacau（ルーマニア）教授
尾石 智洋
日本ハンドボール協会育成委員長、前U-16日本女子代表チーム監督、東京都東久留米西中学校監督

開催日時　2017年2月18日（土）10：30～2月19日（日）12：30

場所　味の素ナショナルトレーニングセンター

内容

第1日目

受付開始	10：00
講義（尾石育成委員長）	10：30～12：00
講義・実技（アクシンテ氏）	13：00～17：00

第2日目

アクシンテ氏の講習会見学	9：00～12：00
ディスカッション	12：00～12：30

参加申込　下記の内容を記載しメールでお申込下さい。
記載内容：①氏名（ふりがな）　②性別　③年齢　④所属（勤め先または所属チーム）　⑤住所　⑥電話番号　⑦メールアドレス　⑧所有資格名および資格登録番号（日体協公認の有資格者のみ；上級コーチ・コーチ・上級指導員・指導員）
申込先：指導委員会中央委員会　田中 良　　Mail：15m0016@nittai.ac.jp
〆切：2017年2月10日（金）

参加費　有資格者（日体協公認　上級コーチ・コーチ・上級指導員・指導員）……2,000円
上記以外の参加希望者……………………………………………………4,000円
2017年2月10日（金）までに下記の口座へお振込み下さい。
三菱東京UFJ銀行　渋谷中央支店
普通　232305　（財）日本ハンドボール協会

備考　この講習会は指導者有資格の義務研修となりますので、カードをお持ち下さい。

問い合せ先　藤本　元（日本ハンドボール協会　指導委員長）
TEL：029-853-2714
Mail：fujimoto.hajime.gn@u.tsukuba.ac.jp

日本ハンドボール学会（JAHR）第5回大会開催要項

1 日時

2017年3月4日(土) 13時30分から17時30分
（受付開始13時00分）
2017年3月5日(日) 9時00分から13時15分
（受付開始8時30分）

2 会場

東京理科大学葛飾キャンパス講義棟（東京都葛飾区新宿6-3-1）
アクセス：https://www.tus.ac.jp/news/katsushika/access/index.html

3 大会プログラム

【2017年3月4日】

13：00～ 受付
13：30～13：35 会長挨拶 大西武三（日本ハンドボール学会会長）
13：35～15：35 シンポジウム

前十字靭帯損傷は防げる！選手を守るための現場的エッセンス

パネリスト：下河内洋平（アスレティックトレーナー、大阪体育大学）
井本光次郎（整形外科医、熊本赤十字病院）
ほか理学療法士、コーチの登壇予定
コーディネーター：小笠原一生（大阪大学）

ハンドボールで頻発する膝前十字靭帯（ACL）損傷は非常に重篤な外傷でありながら予防するための確固たる方策が確立されていないのが現状です。本シンポジウムでは「前十字靭帯損傷は必ず防げる」という信念のもと各エキスパートが現場で活かせる予防的エッセンスを紹介し、一人でも多くの選手を前十字靭帯損傷から守るために前向きな議論をします。

15：50～17：30 一般発表

【2017年3月5日】

08：30～ 受付
09：00～10：45 一般発表
11：00～12：30 基調講演

Relationship between handball research and coaching in Europe

講演者：František Táborský（プラハ・カレル大学）

タボルスキー先生は、国際ハンドボール（IHF）連盟指導委員、ヨーロッパハンドボール連盟指導委員長を歴任し、現在は国際大学スポーツ連盟ハンドボール部門会長、IHF Handball at School講師を務めています。今回は、ヨーロッパにおけるハンドボールの研究とコーチングとの関係についてお話しいただきます。講演はドイツ語で行われますが、通訳がつきますので安心してご参加ください。

12：30～13：15 総会

＊プログラムは変更の可能性があります。事前に日本ハンドボール学会ウェブサイトでご確認ください。

4 参加申込

(1) 申込締切日
当日参加も受け付けますが、できるだけ事前にお申込み下さい。

(2) 申込資格
学会員および非学会員（ハンドボールに関する研究、実践に携わる者）

(3) 申込方法
非学会員の方は、氏名、住所、所属、メールアドレス、緊急連絡先（携帯など）を大会実行委員会（tsuji@nittai.ac.jp）に電子メールでお送り下さい。1週間以内に申込受理のメールを返信します。

(4) 参加費（全日程）
①学会員：無料
②非学会員：（一般）3000円、（大学院生・大学生）1000円
参加費は当日受付にてお支払い下さい。

5 大会抄録集

学会員へは、参加の有無にかかわらず学会大会開催前にお送りします。非学会員へは、当日受付にてお渡しします。

問い合わせ

■参加・発表申込
大会実行委員会
メール：tsuji@nittai.ac.jp
電話／FAX：03-5706-0926

■会員登録など
日本ハンドボール学会事務局
メール：hiroaida@taiiku.tsukuba.ac.jp
電話／FAX：029-853-2635

スコアルーム①

高松宮記念杯男子第59回・女子第52回全日本学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年11月19日（土）～11月23日（水）
会　場：徳島市・アスティとくしまほか

【男　子】

▼１回戦

筑波大（関東）	24（11－10、13－9）19	中京大（東海）
立教大（関東）	37（19－11、18－16）27	名桜大（九州）
国士舘大（関東）	35（14－9、21－11）20	天理大（関西）
関西学院大（関西）	34（15－7、19－11）18	東北福祉大（東北）
日本大（関東）	34（18－14、16－13）27	名城大（東海）
日本体育大（関東）	34（16－12、18－17）29	高松大（中四国）
同志社大（関西）	43（22－11、21－13）24	新潟大（北信越）
大同大（東海）	28（10－12、18－13）25	駿河台大（関西）
明治大（関東）	38（21－12、17－7）19	愛知教育大（東海）
順天堂大（関東）	25（17－8、8－10）18	岐阜聖徳学園大（東海）
関西大（関西）	33（16－9、17－15）24	函館大（北海道）
早稲田大（関東）	35（16－12、19－17）29	大阪経済大（関西）
中央大（関東）	40（21－11、19－13）24	近畿大（関西）
福岡大（九州）	34（13－11、21－11）22	金沢大（北信越）
東海大（関東）	31（12－13、19－12）25	中部大（東海）
大阪体育大（関西）	30（14－15、16－12）27	法政大（関東）

▼２回戦

筑波大	37（22－14、15－13）27	立教大
国士舘大	31（14－9、17－13）22	関西学院大
日本体育大	29（13－14、16－13）27	日本大
大同大	32（17－18、15－12）30	同志社大
明治大	33（17－12、16－14）26	順天堂大
関西大	36（19－14、17－17）31	早稲田大
中央大	32（17－15、15－15）30	福岡大
大阪体育大	26（16－9、10－14）23	東海大

▼準々決勝

国士舘大	32（14－10、18－9）19	筑波大
大同大	30（14－17、16－9）26	日本体育大
明治大	32（18－7、14－17）24	関西大
中央大	28（15－12、13－15）27	大阪体育大

▼準決勝

国士舘大	33（15－10、18－19）29	大同大
明治大	33（14－13、14－15）32 （4－3 延長 1－1）	中央大

▼決　勝

国士舘大	34（16－13、18－13）26	明治大

【女　子】

▼１回戦

大阪体育大（関西）	26（16－10、10－9）19	早稲田大（関東）
天理大（関西）	46（29－8、17－6）14	札幌国際大（北海道）
日本女子体育大（関東）	26（14－11、12－11）22	環太平洋大学短期大学（中四国）
日本体育大（関東）	20（9－8、11－8）16	中京大（東海）
富士大（東北）	31（15－10、16－14）24	立命館大（関西）
国士舘大（関東）	32（16－13、16－14）27	琉球大（九州）
同志社大（関西）	28（13－10、15－10）20	富山国際大（北信越）
筑波大（関東）	41（23－4、18－7）11	愛知教育大（東海）
大阪教育大（関西）	30（19－7、11－12）19	仙台大（東北）
福岡大（九州）	29（12－15、17－8）23	玉川大（関東）
大同大（東海）	45（26－3、19－4）7	新潟大（北信越）
桐蔭横浜大（関東）	31（16－16、15－9）25	東海学園大（東海）
関西大（関西）	34（14－5、20－8）13	東北福祉大（東北）
武庫川女子大（関西）	30（14－8、16－10）18	東海大（関東）
環太平洋大（中四国）	38（17－7、21－5）12	北海道教育大学岩見沢校（北海道）
東京女子体育大（関東）	31（15－5、16－9）14	関西学院大（関西）

▼２回戦

大阪体育大	34（22－8、12－8）16	天理大
日本体育大	25（10－5、15－10）15	日本女子体育大
国士舘大	29（16－12、13－8）20	富士大
筑波大	25（13－3、12－12）15	同志社大
大阪教育大	36（17－6、19－7）13	福岡大
桐蔭横浜大	28（16－13、12－12）25	大同大
武庫川女子大	26（14－14、12－7）21	関西大
東京女子体育大	27（14－9、13－5）14	環太平洋大

▼準々決勝

大阪体育大	27（15－13、12－11）24	日本体育大
筑波大	26（12－8、14－12）20	国士舘大
桐蔭横浜大	29（13－9、10－14）28 （3－3 延長 3－2）	大阪教育大
東京女子体育大	31（17－7、14－12）19	武庫川女子大

▼準決勝

大阪体育大	35（16－11、19－9）20	筑波大
東京女子体育大	30（15－9、15－9）18	桐蔭横浜大

▼決　勝

大阪体育大	27（13－9、14－8）17	東京女子体育大

スコアルーム②

第68回日本ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年12月20日（火）～12月25日（日）
会　場：東京都・エスフォルタアリーナ八王子、駒沢体育館

【男　子】

▼１回戦

国士舘大学	31（12－7、19－11）18	HC岡山
大阪体育大学	28（15－13、13－8）21	FOG
大同大学	36（18－11、18－10）21	東北福祉大学
北陸電力	25（10－8、15－7）15	福岡大学
HC和歌山	24（11－6、13－16）22	藤代紫水高校
氷見クラブ	33（15－12、18－13）25	湖陵クラブ
EHC	27（13－10、14－16）26	瓊浦高校
明治大学	34（19－12、15－15）27	日本体育大学

▼２回戦

国士舘大学	27（15－12、12－14）26	大阪体育大学
大同大学	27（12－8、15－14）22	北陸電力
HC和歌山	30（17－10、13－12）22	氷見クラブ
明治大学	40（15－13、25－13）26	EHC

▼３回戦

トヨタ紡織九州	26（12－9、14－12）21	国士舘大学
湧永製薬	35（15－12、20－11）23	大同大学
琉球コラソン	32（18－8、14－9）17	HC和歌山
豊田合成	30（15－15、15－14）29	明治大学

▼準々決勝

大崎電気	33（16－12、17－15）27	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	22（10－10、12－11）21	湧永製薬
トヨタ自動車東日本	27（11－11、16－11）22	琉球コラソン
トヨタ車体	30（12－7、18－19）26	豊田合成

▼準決勝

大崎電気	24（10－14、14－9）23	大同特殊鋼
トヨタ車体	24（13－12、11－4）16	トヨタ自動車東日本

▼決　勝

大崎電気	31（16－14、11－13）30 （1－2 延長 3－1）	トヨタ車体

※下記のチームの正式名称
「トヨタ紡織九州」：トヨタ紡織九州レッドトルネード

【女　子】

▼１回戦

大阪教育大学　30（19－6、11－12）18　ＨＣ岡山
名古屋経済大学市邨高校　27（14－10、13－12）22　富士大学
アランマーレ　44（20－5、24－3）8　北海道倶楽部
香川銀行Ｔ・Ｈ　25（12－8、9－13）23　東京女子体育大学
（1－1 延長 3－1）

▼２回戦

北國銀行　32（13－5、19－9）14　大阪教育大学
明光学園高校　28（12－9、16－13）22　オレンジクラブ
大阪体育大学　22（12－10、10－11）21　飛騨高山ブラックブルズ岐阜
広島メイプルレッズ　37（14－9、23－11）20　名古屋経済大学市邨高校
ソニーセミコンダクタ　27（14－9、13－5）14　アランマーレ
三重バイオレットアイリス　24（10－8、14－8）16　桐蔭横浜大学
ＨＣ名古屋　24（14－4、10－10）14　鹿児島南高校
オムロン　29（14－6、15－13）19　香川銀行Ｔ・Ｈ

▼準々決勝

北國銀行　42（18－2、24－7）9　明光学園高校
大阪体育大学　23（14－11、9－9）20　広島メイプルレッズ
三重バイオレットアイリス　24（9－11、15－12）23　ソニーセミコンダクタ
オムロン　22（11－12、11－7）19　ＨＣ名古屋

▼準決勝

北國銀行　26（11－8、15－10）18　大阪体育大学
オムロン　25（12－9、13－11）20　三重バイオレットアイリス

▼決　勝

オムロン　28（12－13、12－11）25　北國銀行
（2－1 延長 2－0）

※下記のチームの正式名称
「ソニーセミコンダクタ」：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
「アランマーレ」：プレステージ・インターナショナルアランマーレ

スコアルーム③

第25回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ2016ハンドボール大会

開催期日：2016年12月23日（金）～12月27日（火）
会　　場：沖縄県・浦添市民体育館、豊見城市民体育館

【男　子】

▼予選Ａ組

富山　23（8－4、15－14）18　宮崎
富山　24（12－8、12－14）22　山梨
宮崎　24（10－14、14－7）21　山梨

▼予選Ｂ組

広島　33（13－15、20－8）23　岐阜
広島　21（11－9、10－9）18　北海道
岐阜　30（16－5、14－11）16　北海道

▼予選Ｃ組

大分　30（16－9、14－9）18　兵庫
大分　27（12－5、15－8）13　徳島
兵庫　34（21－8、13－17）25　徳島

▼予選Ｄ組

埼玉　25（13－8、12－7）15　福島
埼玉　32（16－8、16－10）18　三重
福島　21（9－11、12－5）16　三重

▼予選Ｅ組

福岡　26（12－6、14－9）15　奈良
福岡　30（13－12、17－7）19　福井
奈良　22（8－7、14－14）21　福井

▼予選Ｆ組

山口　28（17－7、11－12）19　茨城
山口　30（13－9、17－10）19　岩手
茨城　21（8－11、13－9）20　岩手

▼予選Ｇ組

香川　23（13－9、10－12）21　熊本
香川　27（13－9、14－7）16　大阪
熊本　22（12－10、10－7）17　大阪

▼予選Ｈ組

浦添市　18（6－7、12－10）17　愛知
浦添市　26（16－7、10－13）20　群馬
愛知　33（18－5、15－9）14　群馬

▼準々決勝

広島　23（13－8、10－14）22　富山
大分　21（6－8、15－8）16　埼玉
福岡　21（9－8、12－11）19　山口
浦添市　20（7－10、13－9）19　香川

▼準決勝

大分　23（13－11、10－8）19　広島
福岡　24（11－11、13－12）23　浦添市

▼決　勝

大分　20（10－10、10－9）19　福岡

【女　子】

▼予選ａ組

熊本　40（22－7、18－7）14　岩手
熊本　31（12－9、19－7）16　京都
岩手　31（15－6、16－13）19　京都

▼予選ｂ組

愛知　16（9－7、7－8）15　群馬
愛知　25（7－7、18－9）16　北海道
群馬　22（14－9、8－6）15　北海道

▼予選ｃ組

山口　27（16－5、11－12）17　宮崎
山口　17（9－5、8－12）17　兵庫
兵庫　19（10－12、9－6）18　宮崎

▼予選ｄ組

東京　22（12－15、10－7）22　富山
東京　46（22－6、24－9）15　福島
富山　36（17－8、19－7）15　福島

▼予選ｅ組

大分　19（10－5、9－8）13　茨城
大分　43（20－8、23－10）18　山形
茨城　23（11－13、12－7）20　山形

▼予選ｆ組

三重　29（13－13、16－11）24　千葉
三重　28（14－9、14－11）20　奈良
千葉　28（12－11、16－11）22　奈良

▼予選ｇ組

神奈川　23（10－11、13－5）16　浦添市
神奈川　22（14－6、8－10）16　愛媛
浦添市　22（13－7、9－8）15　愛媛

▼予選ｈ組

石川　18（9－10、9－4）14　福岡
石川　24（15－6、9－10）16　岡山
福岡　18（10－9、8－8）17　岡山

▼準々決勝

熊本　20（8－8、12－6）14　愛知
東京　27（13－12、14－9）21　山口
大分　23（13－5、10－9）14　三重
石川　19（13－10、6－8）18　神奈川

▼準決勝

熊本　24（11－10、13－6）16　東京
大分　26（13－8、13－6）14　石川

▼決　勝

大分　21（11－9、10－10）19　熊本

▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」（本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

閲覧者	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25	26

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【宮城】千田文彦【茨城】海老原和子【栃木】坂本定芳【群馬】河内弘美【埼玉】大塚治恵、長田健吾、山口隼和【千葉】寺原智之、山田友美【東京】大熊昌巳、岡前義春、佐藤俊男、佐藤映子【神奈川】福井俊彦、田原やよい、大井壮信、生熊健二、加古川範子、阿部雅義、鷲塚怜亜【山梨】原　直人【新潟】飯田和弘【富山】吉水慎一【静岡】保坂亮樹、青木美佳【愛知】荒川健児、新井こずえ、加藤恵美子、稲本　等、伊藤克美、野田　清、井田ゆかり、内田元規【三重】細野秀男【岐阜】塚原清香【滋賀】谷口俊夫、高畠典克【京都】守本幸三郎【大阪】西野　誠、山本伸二【鳥取】足立逸郎【岡山】奥埜美峰、奥埜啓子【広島】白石　隆【愛媛】小寺竜優【福岡】政田佳之【熊本】藤田八郎

【2月・3月の行事予定】

【会議】

2月11日(土)　第2回理事会
2月12日(日)　第2回全国理事長会
3月11日(土)　常務理事会

【大会】

2月10日(金)～12日(日)　全日本社会人チャレンジ2017………（和歌山ビッグホエール）
3月13日(月)～22日(水)　第16回女子アジア選手権 ……………………（韓国・水原市）
3月18日(土)～19日(日)　第41回日本リーグプレーオフ（男子）（東京都・駒沢体育館）
3月24日(金)～29日(水)　第40回全国高校選抜大会（兵庫県・神戸市、加古川市、高砂市）
3月25日(土)～26日(日)　第41回日本リーグプレーオフ（女子）………………（熊本市）
3月25日(土)～29日(日)　第12回春の全国中学生選手権大会 ………（富山県・氷見市）

HANDBALL CONTENTS Jan.Feb.

次号3・4月合併号（No.566）は4月1日発行予定です。





私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランを日々ご提案しております。　自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズも順調に分譲し続ける中、早いもので『 東京オリンピック 』まで、あと3年となりました。気が早いですが、会場で選手達を応援するのをとても楽しみにしております！





代表取締役　青木 理恵



私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　　http://yurika-co.jp/



(公財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五六五号
平成二十九年一月二十六日印刷
平成二十九年二月一日発行
東京都新宿区本塩町二三 第2田中ビル7F
電話 代表 〇三－六七〇九－八九四〇
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 蒲生晴明
定価 年間三三〇〇円